

学校運営協議会の運営状況について

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成19年度指定	東浅川小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①夏楽校</li> <li>②漢字検定</li> <li>③親子なかよし映画会</li> <li>④授業参観・授業評価</li> <li>⑤登下校の挨拶見守り</li> <li>⑥学校運営協議会だより</li> <li>⑦学校行事への参加や、生活指導上の課題検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①夏楽校では、児童が日頃味わえない様々な体験活動を行い、日常生活で生かされることをねらいとして実施。内容は、昔遊び、バスの乗車マナー、車椅子体験、AEDの使い方、戦争体験学習(資料、講話)等を行っている。</li> <li>②漢字検定の実施により、確かな学力を身につけた児童育成のひとつとして、多くの児童の漢字力向上をねらいとして実施。</li> <li>③いじめをテーマとして、学校公開後の下校前の時間を活用し、親子でいじめに対して考える機会となるように映画の上映を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域参画型の体験的活動「夏楽校」の実施により、保護者や地域の教育力の向上が図られた。</li> <li>②漢字検定を通し、多くの児童の漢字力向上が図られた。保護者の参加もあり関心の高まりがみられた。</li> <li>③保護者・児童から、あらためて「思いやり」について考えたり、人権について考えたりする良い機会となったという、感想が寄せられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①夏楽校の充実・発展(1学期)</li> <li>②漢字検定の充実・拡大(3学期)</li> <li>③親子なかよし映画会の充実(2学期)</li> <li>※人間関係をテーマとした映画鑑賞を通し、いじめ、不登校、自殺等の現代社会の問題について、親子で語り合い、共に考え、自他の心に向き合うことをねらいとする。</li> </ul>
	第六中学校	8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①真の学力向上5か年計画 本計画の最終年度を迎え、これまでの評価を踏まえ、六中生にとって身につけるべき具体的な学力・体力の向上に対する具体策について協議した。</li> <li>②各種学校運営評価アンケートにおいてポイントの低い家庭学習に対する取り組みを検討した。</li> <li>③本校で求める具体的な「真の学力向上」の一つとして「地域に貢献し、地域と共に歩むちから」を位置づけ、7年目を迎える地域防災訓練やロードレース大会、地域クリーン活動等の在り方を検討した。また、教育サポーター等の確保とその処遇について協議した。</li> <li>④教育目標の、「徳」、「責」の在り方、取り組みの経緯、経過、今後の対応等について特に協議した。また、当面の取り組みとして、いじめ問題の背景となった「スマホ」に関し、PTAとも連携しながら協議した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①②放課後学習教室(マンディクラス、寺子屋)を継続し、教育サポーター、教員による継続的な取り組みを行った。</li> <li>③9月に第7回地域総合防災訓練を実施した。また、地域の全面的な協力体制のもと、第2回ロードレース大会を第三小学校とも連携して実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①②生徒に求める「真の学力」について意見交換を行い、質の高い授業を行うことにより、進学等に関わる学力の他、いわゆる生きる力のうち、課題解決力や問題に対応する力も重要であることが共通認識された。また、基礎学力の定着を目指した、マンディクラス、寺子屋の開催により、学習につまずきや苦手意識を持つ生徒が、継続して学習に取り組む習慣が確立した。</li> <li>・なぜ学習するのか、学習することで何に役立つのかを知り、各教科の学習の目的を知る機会とし、学運協の中での理解を図った。全校で、学級で段階的に周知しながら、生徒自らが学習について思考する力が育ってきている。</li> <li>③学運協主催で第7回地域総合防災訓練を実施し、町会の一員としての役割、自助共助の取組を行い、日ごろの生活圏での取り組みを意識することが出来た。また、青少対主催の下、ロードレース大会や地域クリーン活動等を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①②学校として求める「真の学力」の中心は生きる力であると共に、他者をも尊重する共生社会であることを、再度教職員が理解を深めることと、保護者・地域が深く共通理解できるよう具体的な取り組みや広報活動が必要である。</li> <li>・得点力等の基礎的学力を定着させる方策として家庭学習をとらえ、自らの行動を促し、学校評価アンケートでのポイントがあがる取り組みを推進する。さらに、地域が日ごろから子供を見守り、寄り添う機運の醸成を図ることに努める。</li> <li>③地域の一員としての役割を理解し、地域と一体となって、大規模災害発生時に役立つ訓練内容を取り入れる。また、小・中連携を一層促進し、異年齢交流の効果増進を図る。</li> </ul>
	宮上中学校	13回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①宮上ミュージアムの運営</li> <li>②子どもを取り巻くSNS利用に関する実態の共有と、地域で取り組むべき課題についての情報共有</li> <li>③土曜学習教室、各種検定実施に対する支援体制の在り方等</li> <li>④周年記念行事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「宮上ミュージアム」の運営 ・地域と学校を結びつける拠点として「宮上ミュージアム」の運営を行う。</li> <li>・運営にあたってPTAの協力を得て、幅広い協力者を集める。</li> <li>・生徒の作品や活動を地域へ伝える拠点とする。</li> <li>①②各種行事への協力 ・学校行事、地域活動への地域・保護者の参加が増えるように、広報活動を重視する。</li> <li>③学校支援活動の継続 ・英検、漢検の学校実施、土曜学習教室への支援</li> <li>④30周年記念誌の作成に協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①②みやかみミュージアムについては、生徒の作品を展示し、定期的に展示替えする体制を作ることができた。また定期的に夜間開放を行い、近隣住民の利用を促すことができた。</li> <li>③土曜学習教室については、参加した生徒は大変集中して利用することができ、場を管理しているPTA学習支援部との連携もスムーズにできた。また、玉川大学教職大学院と連携して、教員免許を保持している学生により、支援を受けることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①みやかみミュージアムについては、今年度、生徒の作品を展示し公開する場としては体制が整った。地域に向けて開放するための運営スタッフを広く募集し、地域との連携と学校と地域をつなぐ場としての活動へとつながることが課題である。一般開放のためのスタッフを配置できたが、今後開設の機会を増やしていく必要がある。年度末に設置した学校掲示板等を有効に活用し、今後は地域住民への情報提供の機会を増やす。</li> <li>②土曜学習教室については、自学自習の場である学習ひろばへの参加が少なくなったことが課題である。学校の家庭学習との取組とも連携しながら、意義を生徒たちに伝えていくとともに、部活動等との連携も考えたい。</li> </ul>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成20年度指定	陶鎔小学校	11回	<p>①「TOYO ACTION5」の周知及び見直し ②親子で参加できる企画の検討 ③学校評価、教職員との連携</p>	<p>①従前のTOYO ACTION5にSNSトラブル防止を入れ、TOYO ACTION5+1を作成。 ②子どもの居場所分科会とおやじの会の連携によるナイトツアー等の実施。 ③6月と12月に教員16名と学校運協委員との話し合いを実施し、学力向上の取り組みの評価と学校評価書の実態把握に活用。また、平成30年度の学校評価書を作成。</p>	<p>①TOYO ACTION5+1を作成し、31年度当初に配布予定である。さらに、学校提案型予算で、児童向けTOYO ACTION5+1を作成し、下敷きにして31年度配布予定。 ②ナイトツアーをおやじの会を中心に実施し、450名の参加があった。継続して取り組んでいることで、行事の参加が多くなった。この他にも、町会の夏祭り等参加の輪が広がった。 道徳授業地区公開講座に学運協委員に参加してもらい、道徳授業について話し合った。 ・おやじの会が中心となり、心の池の改修工事など、学校整備事業を実施した。今年度、文部科学大臣賞を受賞。今後ともこれを励みに精進していく。 ③1月に学校評価書を作成し、評価した内容を2月にまとめ、3月に31年度学校経営の素案を提示する。 ・懸案であった学運協に教員の参加が少ないことへの解消策として、年2回の教員との意見交換会を開催した。</p>	<p>①特に児童の睡眠時間について課題が見られ、学習用具の忘れ物も減らない。 ・保護者の育児に関する疑問・質問が多く学校に寄せられているが、地域で子育てを支援する体制を強化することで、トラブルを未然に防止するため、TOYO ACTION5+1の周知に心掛け、学校教育をバックアップする体制を作る。 ②おやじの会の組織率を上げ、学校行事や学校の経営方針を守り、助ける「お助け隊」を組織する。 ・学運協の子供の居場所分科会の行事に参加する教員をさらに増やし、行事の中で役割の一端を担えるよう事前準備をする。 ・八王子市の提案型予算を活用し、児童参加型の地域防災を実施していく。 ③教員アンケートに学運協に協力していないとする教員がいる。教員自身のライフステージに配慮し、様々な参加形態を今後考えていく。地域のコーディネーターに任せ、教員自身が地域に開こうとしない。どの教員でも授業の中で地域の教育力を活用できるよう人材バンクのデータ化を図る。 ・主幹教諭を中心に、管理職だけでなく学校教育の状況を伝えていく主体者に育成する。 ・道徳授業地区公開講座での取り組みは継続を強く望んでいるので、発展的に続けていく。</p>
	浅川小学校	9回	<p>①あさっこTシャツ及びトレーナーの販売 ②日本語検定の実施 ③授業支援 ④各イベントへの協力と連携体制の構築</p>	<p>①昨年度に引き続き、児童・教員・保護者・地域・PTA本部にTシャツ及びトレーナーを販売し、運動会等開催時に着用。 ②年々検定者が増加傾向にある日本語検定の実施し、継続して教育に伴う補助活動を充実。 ③学運協委員の学識経験者や保護者等による学習支援に加え、PTAと連携したボランティア活動も行い、学習支援の充実のために、多岐に渡る活動の幅を広げていった。 ④学運協委員には、様々な団体や組織に加入している人材がいることから、情報共有と連携のために、活動報告を通じた意見交換を実施。また、運動会や講演会への参加を各学運協委員から各団体に発信し、学校の教育活動への理解を求めた。 ・年3回、浅川中学校と輪番で担当する「あいさつ運動」を展開。 ・あさっこに続くイメージキャラクター(三テング【天狗】マーク)を作成し運動会での「高尾天狗踊り」での学習活動での活用披露とゴム印作成によるイメージキャラクターを周知。</p>	<p>①学校全体の一体感と活動PRをすることができた。また、Tシャツやトレーナー販売で捻出した資金を活用し、学校からの要望品を購入し、子どもたちに還元した。 ②日本語検定では、中学校協議会とも連携し、小学生に加え中学生の検定者も加わった。 ③新入生の給食補助や課題を抱えた児童への支援、各種授業の補助など、学校のニーズに応えることができた。 ④浅川小学校の新たなイメージをブランド化し、独自性を高めるとともにキャラクターのゴム印を学習の際の活躍した児童へ押印することで、学習への意識の高揚を図ることができた。</p>	<p>①更なる小中一貫教育の充実(小中合同協議会開催と小中協議会の連携体制) ②学校と地域、保護者のニーズに応えられる体制の再構築(PTAとの連携、地域活動への参加、教員との更なるコミュニケーション等) ③協議会自体のPRはあさっこを含めたいが周知してきたが、浅川地区の特色を生かした総合的な学習の拡充。</p>
	元八王子中学校	9回	<p>①保護者地域への発信方法について ②校内諸問題とその解決について(アンケート実施) ③地域行事を通し、地域と学校をつなげる方法について</p>	<p>①保護者アンケートを実施し、多くの声を集める取り組みをした。 ②各種検定試験を実施し、地域小学生、中学生、大人を含め、述べ150名程度の参加があった。 ③PTAとの懇談会を実施した。また、町内会とも声を掛け合い、地域行事への参加を促した。</p>	<p>①アンケート実施により、保護者の考えや悩みを知ることができた。 ②子どもたちは、検定試験を受けることにより、学習意欲の向上へとつながりつつある。 ③PTAと直接会話をもつことで、今後の活動への参考となった。また、地域行事に関わることができた。</p>	<p>①今後もアンケートの実施やお便りの発行を続ける。 ②ボランティアによる放課後学習会を取り入れるなど、各種検定の参加人数が増えるような工夫について考える。 ③生徒やPTAと直接会話を持つ機会をつくることと、地域各行事等に積極的に参加し、学校と地域の橋渡しをする。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成20年度指定	城山中学校	7回	<p>①小中9年間で視野に入れた教育環境を構築するため城山小学校と連携した学運協の運営について(中学単独4回、小中合同3回協議会を開催する)</p> <p>②学校の公開行事(合唱祭、長唄教室、吹奏楽部定期演奏会など)に地域住民が関心を持ち、多数参加できるようにする。</p> <p>③問題行動を起こす生徒や不登校の生徒の保護者に対して担任・管理職と情報を共有し、学校復帰を促すために助言と支援を行う。</p> <p>④学校に過剰なクレームを持ち込む保護者に対して、学運協でも保護者と接触し、丁寧に傾聴した上で納得できる解決策を提案する。</p> <p>⑤学校環境の美化・整備を推進する。</p>	<p>①小学校とつながった学運協として、小中学校を見る委員5人と中学校のみの委員5人を配置し、各学期1回の小中合同協議会を開催し課題を共有しながら9年間を見据え地域が学校を支えていく取り組みを進めている。</p> <p>②公開行事では学運協でチラシを町会・自治会に配布し、口込みでも参加を呼びかける。</p> <p>③生活指導主任、管理職と情報を共有し必要に応じて適切な対応を行う。</p> <p>④管理職、担任と情報を共有し連携しながら必要に応じて保護者に対応する。</p> <p>⑤入学式、卒業式で会場に花を飾る。また地域のボランティアに声をかけ花壇の整備を行う。</p>	<p>①地域住民やPTA、有識者、関係機関から多くの意見を出し合い、本校の特色を生かしつつ、開かれた学校としてどうしていくことが望ましいのか協議し、明確な方向性をもって教育活動を推進することができた。</p> <p>②学校行事(体育祭、公開授業、合唱祭など)において多くの委員が参加し、生徒・教職員の反省アンケートとともに次年度の改善に役立つ貴重な意見を出せた。また地域の方々も多数参加し学運協の設置の目的や役割が明確になり、より地域との連携が深くなった。</p> <p>③問題行動を起こして補導された生徒が1名、不登校の生徒も若干名いて十分な対応ができなかった。</p> <p>④過大なクレームを持ち込む保護者はいなかった。</p> <p>⑤学運協では、地域から募金を募り、花鉢を購入して卒業式や入学式に飾り、会場の雰囲気盛り上げた。また、地域の有志ボランティアで花壇を整備した。</p>	<p>①各学運協委員が学校を参観する機会を増やし、委員と教職員との交流を深め、さらに学運協が身近な存在となるように努力する。</p> <p>②保護者や地域住民の参加者を増やすばかりでなく、学校行事を支援していただく人材を探す。また城山小学校の学運協との意見交換を十分にしながら小中の連携を深め、城山地区の地域教育力を高める。</p> <p>③問題行動を起こす生徒や不登校生徒の保護者に対し、管理職と連携し積極的に対話し解決への助言を行う。</p> <p>④PTAを通して事前に保護者からの意見や要望を把握し対応する。</p> <p>⑤今後も現在の活動を継続していく。</p>
平成21年度指定	梶田小学校	11回	<p>①地域行事等の周知の際には、学運協主催、共催を明確にするとともに、保護者への周知をしっかりと行い、児童とともに参加を呼び掛ける。(1年給食補助、サタデースクール、漢字検定ボランティア等)</p> <p>・学校・地域共同防災訓練の実施する。</p> <p>②組織を地域運営部、PTA運営部、学校連携部の3部とし、運営を推進する。</p> <p>③学校環境の整備を地域との連携を得て、推進する。</p>	<p>①学運協委員を中心とした、4月中における「1年給食補助ボランティア」を組織し、学校コーディネーターと連携したボランティア募集を行い、1年生給食補助に取り組む。</p> <p>・消防署の協力を得て、地域との共同防災訓練を開催する。</p> <p>・漢字検定試験を実施し、児童の学習意欲を高め、基礎学力向上につなげる。</p> <p>・学校運営協議会便りを活用し、地域運営学校の趣旨や活動内容について積極的に周知する。</p> <p>②地域行事との連携の窓口となる「地域運営部」、PTA活動との連携を推進する「PTA運営部」、学力向上等を推進する「学校連携部」を新たに位置づけ、推進する。</p> <p>③観察池の環境整備、花いっぱい運動を推進する。</p>	<p>①学校・家庭・地域の相互補完により、子どもの健全な育成に取り組むことができた。(1年給食補助・サタデースクール 他)</p> <p>・消防署、PTAの協力を得て、9月15日(土)に学校・地域共同防災訓練を実施し、応急処置、協力体制の必要性等、防災に対する意識向上を図ることができた。</p> <p>・漢字検定試験を実施し、221名の児童が参加。学習意欲を高め、基礎学力向上につなげることができた。また、保護者4名の協力を得ることができた。</p> <p>②分掌を設けたことで、推進する立場が明確になり、外部との折衝等、運営面で効率化が図られた。</p> <p>③観察池の一部をメダカ池とし、児童の学習の場として活用することができた。また、観察池の環境整備、修繕を定期的に行った。</p> <p>・近隣校から借用したプリンターを活用した花いっぱい運動、樹木プレート作成を推進をすることができた。</p>	<p>①児童、保護者、地域の防災意識を高める必要性から、隔年で行われていた学校・地域共同防災訓練を毎年実施することとし、内容面についても工夫することを確認した。</p> <p>・学校安全ボランティアだけでなく、学習見守りボランティア等、保護者・地域住民から募り、地域と学校の一体化を、教育活動を通して具体化する。</p> <p>・漢字検定試験を土曜実施とし、学運協・保護者の協力を得た形で実施していく。</p> <p>②学運協の各組織での活動内容に見直しをもち、学校との連携を密にしていく。</p> <p>③体育館北側の敷地を有効活用できるよう環境整備を進める。また、観察池の一部をビオトープ化、樹木プレート作成、花いっぱい運動をさらに推進していく。</p>
	中山小学校	12回	<p>①花壇やビオトープの維持など、学校環境の整備</p> <p>②小中一貫教育の推進</p>	<p>①季節ごとに花壇の花を植え替えやビオトープの水藻除去作業をはじめとした学校環境維持活動を実施した。</p> <p>②中山中学校区の三校で、三校合同学校運営協議会を学期ごとに開催。また、学校公開日に小中合同で地域の専門家を招き、地域交流講座を開いた。</p> <p>・防災・安全地域マップを三校が協力して作成。</p> <p>・地域交流講座では、児童・生徒が交流しながら体験学習を実施。</p>	<p>①植栽活動を通して「花いっぱい」を印象づけることができた。また、ビオトープの清掃により、児童の観察に適切な環境を維持することができた。委員だけでは手がいっぱいになるので、保護者の協力をもっと得ることが課題であったが、今年度は、おやじの会との連携で、活動に活気が出ると同時に、活動内容を充実させることができた。</p> <p>②教員の意識の向上がみられた。教員も分科会に分かれて、年に数回、同じ分科会の学運協委員と交流した。</p> <p>防災・安全地域マップは各教室に掲示することで防災意識を高めることにつながっている。</p>	<p>①委員を中心に、広く協力を呼びかける。また、学校ホームページに地域のページを作り、広報活動に力を入れる。</p> <p>②地域交流講座の準備において、教員ひとりひとりが主体的に関われるようにしたい。そのため、事前の準備段階から教員もかかわれるように、打ち合わせなどの機会をつくる。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成21年度指定	宮上小学校	11回	<p>①校内課題について(課題を持つ児童や保護者からの要望の情報共有および解決に向けての協議)</p> <p>②協議会が主催となるイベントの企画</p> <p>③教職員の要望の吸い上げ</p>	<p>①学校と情報を共有した上で、支援が必要な児童と保護者からの要望への対応ができた。</p> <p>②学運協と放課後子ども教室の共催企画として、講師を招き子どもの遊びのイベントを実施した。</p> <p>③学運協委員と教職員の交流会を開催。親睦を図りながら教職員からの意見の吸い上げができた。</p>	<p>①児童や保護者の対応を学校と学運協が連携しながら対応することで、問題解決ができ、教職員や保護者から信頼される存在となった。学運協が身近な存在であることが周知されたことで、毎月発行の「協議会だより」もよく読まれるようになった。</p> <p>②遊びのイベントは3年連続で開催できており定着しつつある。誰とでもすぐ仲良くなれる内容のプログラムのため、児童の友だちづくりに役立った。</p> <p>③教職員のほぼ全員と学運協委員が和やかに意見交換ができたことで、お互いに親近感が増した。学年ごとのイベントなどに、担任からの要請で委員を始め地域の人材の活用が増えた。</p>	<p>①一般級、特別支援学級を問わず、支援が必要な児童の対応が課題である。ことに本校は、課題を持ちながら他校から転入してくる児童が多い。学校の日常を見る限り、明らかに人材が不足している。一層の公的な人材の配置を希望するところだが、地域の人材も活用しながら、サポート体制を構築する必要がある。来年度は空き教室ができるため、地域の部屋としての運用を考えている。</p> <p>②各種ボランティアや地域の人が自然に集まり、学校をサポートできるような態勢を徐々に整えていきたい。</p> <p>③3校合同学校運営協議会のあり方を他校と協議し、より有効な合同学校運営協議会にする。</p>
	下柚木小学校	11回	<p>①児童の学力向上に寄与し、保護者同士の関係づくりや連携を構築するため、学校運営協議会がどのように関わっていくか。</p> <p>・校内研究国語「読むこと」、夏季算数教室、放課後算数教室「下柚木道場」等を通し、どのような取組が児童の学力向上に繋がるか。</p> <p>・学校図書館推進委員会において、児童に図書との触れ合いを増やす取組を通して、その読書活動をいかに高めることができるか。</p> <p>・「放課後見守り委員会(放課後子ども教室)」の存続と運営に関し、今年度、持続的・安定的な運営に向けた組織づくりをいかに構築することができるか。</p> <p>・地区班担当委員会を通し、児童の地域的活動と安全を保障していくためにはどうしたらよいか。</p> <p>・学校林活用推進委員会を通じ、本校の特色である学校林の整備・活用の発展のために、どのような活動を進めていくことが有効であるか。</p>	<p>①学運協の運営を、次のような形態で実施する。</p> <p>・各学期に1回、下柚木小学校において、拡大学校運営協議会を実施し、それを構成する「学力向上」「学校図書館活用」「放課後見守り」「地区班担当」「学校林活用」の5委員会の主体的な取組を通じて、児童の教育活動の支援を行う。</p> <p>・各学期に1回、宮上中学校・宮上小学校と共に、3校連携で行い、情報交換とテーマを決めた熟議を行うことにより、各校の運営に資すると共に、宮上・下柚木地区の児童・生徒の健全な育成を図る。</p>	<p>①拡大学校運営協議会の積極的な運営により、次のことが実施できた。</p> <p>・学力向上委員会では、保護者ボランティアの教科支援が拡大し、校内研究にも触れ、教員と共に児童の学力向上について考えを深めることができた。</p> <p>・図書ボランティアの活動では、活動の創意工夫が拡大し、図書に興味を示し、読書活動が高まるだけでなく、ボランティア活動そのものを楽しみにする児童が増えた。</p> <p>・放課後見守り委員会(放課後子ども教室)の存続については、一昨年度危ぶまれたが、委員の募集や引き継ぎ体制を工夫することにより、安定した運営ができるようになった。</p> <p>・地区班担当委員会では、学区域点検等を踏まえ、安全に関する具体的な取組を進めることができた。</p> <p>・学校林活用推進委員会では、保護者ボランティアによる児童への指導・支援の継続、及び東京都産業労働局講師の指導により、森林や環境についての理解を深めることができた。</p> <p>・3校合同学校運営協議会により、多方面から地域住民や児童・生徒の姿を見つめ、今後の地域づくりについて、意見交換を行うことができた。</p>	<p>①拡大学校運営協議会及び下部組織である5委員会の活動は、安定的な活動が行われている。中心的なメンバーの交代があったとしても、継続的な活動を可能にするための一定のノウハウづくりが必要になる。また、学運協委員を確保することは必ずしも容易ではない傾向にある。今後は、各委員会のメンバーを偏りなく、安定的かつ継続的に確保していくための取組が必要になると思われる。</p> <p>②地域代表のシニア世代の委員が、地域のシニア世代の方々の交流の場として昨年度「サロン」を開設くださった。今年度は行事等の参観が実現したが、「サロン」と学運協との連携をいかに図っていくかは課題である。</p> <p>③現在、保護者相互の関係構築には、学校がかなりリードをとっている。児童の地域における人間関係を築いていくためにも、何年か後には、保護者相互の関係を保障するPTA組織の再編が望まれる。</p>
	第一中学校	9回	<p>①学校生活におけるアンケート(嫌なことを言われたり、されたりしていないかを記名式でアンケート調査)等の報告を受け、生徒の現状を把握・分析した。</p> <p>②第4回学運協(9月5日)では、問題傾向生徒の状況や安否確認を定期的に行っている生徒の様子を聞き取り、教員の取組等について指導・助言を行った。</p> <p>③学運協に参加した教員(延べ人数17名)と懇談し、授業指導の状況や生徒の学校生活の様子を具体的に聞いて、学校への提言を行った。</p> <p>④総合防災訓練の運営状況を確認し、今後の課題を整理した。</p>	<p>①「教育活動アンケート」では、本年度の前期・後期を比較分析した。</p> <p>②本年度の学運協では、委員と教員の懇談の機会を増やし(6回で17名)、学校の状況を具体的に把握し、個々の教員への指導・助言を行った。</p> <p>③「学校と地域が連携した総合防災訓練」は、本学運協から立ち上げた活動であり、本年度で第6回目を数えた。学運協に「地域活動支援部会」を設けて支援した。</p>	<p>①「教育活動アンケートの分析及び提言」を学運協の活動の大きな柱に位置付けており、本年度の協議会でも実施の準備や結果報告の分析を行った。生徒の学校生活上の課題を見出し、改善に向けた提言を行った。</p> <p>②校長は「全教員が学運協に年間1回以上出席し、学運協委員との懇談を通して自らの指導の改善に努めること」と指示したが、通算6回の学運協に延べ17名の教員が出席し、話し合いを通して意思疎通を図ることができた。</p> <p>③第6回 学校と地域が連携した総合防災訓練は、東京消防庁小宮出張所・消防団4分団・市役所防災課及び教育総務課・地元町会等との連携をさらに進めて実施した。</p>	<p>①いじめを許さない、相手を思いやる気持ちを育てるために、生徒の学校生活全般についての適切な情報を得て、学校運営に対して分析と提言を行う。</p> <p>②学校と地域が連携した総合防災訓練では、外部機関からの多大な協力を得て内容の充実を毎年図っている。今後は、生徒の主体的な活動を促す工夫が必要である。</p> <p>③放課後学習教室の支援、各種検定試験実施の支援などを通して、生徒が主体的に学ぼうとする姿勢をさらに支えていくことが必要である。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成21年度指定	11回	<p>①道徳授業について</p> <p>②進路指導について</p>	<p>①学運協委員を講師とする道徳の授業の実施</p> <p>②学運協委員が教員とともに、全3年生に対し進路面接を実施。そのことを通し、3年生の進路選択の充実を図るとともに、委員と教員・委員と生徒の連携を強める。</p>	<p>①生徒が学運協委員の豊かな人生経験に基づく講話を聴くことにより道徳的心情を高めることができた。</p> <p>②3年生の進路面談の充実とその結果としての3年生の進路選択の充実並びに学運協委員と教員・生徒との連携を強化することができた。</p>	<p>①(展望)学運協委員を講師とした授業や公演の継続実施 (課題)講師の人選や時間調整、事前の打合せ時間の確保</p> <p>②(展望)学運協委員と教員が連携した進路面談の継続実施 (課題)講師の人選や時間調整、事前の打合せ時間の確保</p>
	9回	<p>①地域と連携した防災訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月の町会防災訓練への参加</li> <li>・緊急時飲料水(児童用)の確保・保管場所・費用負担、及び購入に関して</li> </ul> <p>②七小見守り隊の活動の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸ボランティアの活動の充実について</li> </ul> <p>③学習ボランティアやゲストティーチャーの確保について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低、中学年を中心に各学級に入れるよう、ボランティア募集を拡充し、配置を検討する。</li> </ul> <p>④地域運営学校事務局の発足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学運協だよりの発行に向けた環境整備</li> </ul>	<p>①地域と連携した防災訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時飲料水(児童用)の購入:7年保存水→6年卒業時に個人に返却(購入予算はPTA予算より計画的に執行していく)</li> </ul> <p>②七小見守り隊の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃活動の見守りと助言・支援:引き続き、清掃指導での支援・助言をお願いしている。</li> <li>・園芸ボランティア:屋上庭園・学級園及び花壇の整備</li> </ul> <p>③学力向上支援としての「漢字検定」の実施</p>	<p>①PTA本部との連携により、「7年保存水」の定期購入が実現。今後は第1学年入学時に1年児童分を購入し、6年卒業時に個人に返却できるように計画を立てた。このことにより、万が一災害に見舞われ、避難所として児童が残留した場合の飲用水の確保ができるようになった。</p> <p>②地域の育成指導委員や民生児童委員の方々に、清掃ボランティアとして清掃指導の支援をしていただいた。また、栽培・園芸ボランティアの方々の日常的な活動により、学級園の整備、花壇や学校周辺の植栽(プランター)等の環境美化が進んだ。</p> <p>③学運協としてPTAに協力依頼をし、漢字検定準会場として実施。児童の学習意欲向上に繋がっている。</p>	<p>①地域運営学校組織の定着(3部会)と活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境整備→屋上庭園の整備、校庭一部芝生化の環境整備</li> </ul> <p>②学校運営協議会(地域運営学校)事務局の発足・組織化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局環境整備→事務机、定例会等</li> <li>・学校運営協議会への出席依頼の整備</li> </ul> <p>③見守り隊の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃、園芸、学習支援ボランティア(低学年寺子屋算数)の募集、人材バンク化</li> </ul>
平成22年度指定	11回	<p>①学力向上の一環として、漢字検定を実施。</p> <p>②体力向上のための走ろう週間に合わせ長距離走の走り方講習会を実施。</p> <p>③環境教育・郷土愛を育むために、鮭の稚魚放流会を実施。</p> <p>④学校保健委員会を年3回実施する際、学運協の参加を依頼し、学校の保健指導の取組を公開。</p> <p>⑤教育目標への取組を振り返り、教職員の自己評価表を公表し、それを基に学校関係者評価を作成。</p>	<p>①漢字検定の実施</p> <p>②近隣大学(法政大学・法政クラブ)による陸上教室の実施</p> <p>③12月頃より鮭の卵(イクラ)を飼育し、3月に鮭の稚魚放流会を実施した。3年目になるが年々、この活動に賛同ある保護者が増加している。</p> <p>④学校保健委員会は、専門家の講演があり有意義であったが、もっと多くの参加があるとよい。</p> <p>⑤自己評価表を委員に公開し、評価を得る。</p> <p>⑥学校運営協議会の実施日には、毎回スライド上映をし、参加者に館小中学校の児童生徒の様子を発信している。</p>	<p>①漢字検定の申請は、48名あった。日頃の漢字学習の成果を検定を受けることにより意欲を高めている。学校を漢字検定準会場として実施することで、小・中・地域のつながりも高まっている。</p> <p>②陸上教室では近隣の大学の方に、講師をお願いし、長距離における走り方教室を実施した。そのため、その後に行われた青少対主催のマラソン大会にも多くの児童生徒が参加し、保護者・地域にも好評だった。秋から冬に実施する長距離走への意欲が向上し、また正月の箱根駅伝等への関心にもつながり、郷土愛にもつながる機会となった。</p> <p>③鮭をイクラから稚魚になるまでを飼育できることは、命の大切さを実感するとともに地域の豊かな自然を満喫する機会となった。また、地域理解、郷土愛の一助となった。</p> <p>④年間3回の学校保健委員会を開催したことで、学校保健の取組や保健指導の課題を学運協委員、保護者、地域で共有することができた。</p> <p>⑤自己評価表を委員に公開し、評価を得ることで学校運営への参画の意識を高めた。</p> <p>⑥学校運営協議会でのスライド上映は、学校教育活動がよくわかると好評である。</p>	<p>①漢字検定に参加することにより、学習習慣をつけ基礎学力を向上させる一助とする。</p> <p>②今後も、大学との連携を長距離走を進め、マラソン大会等に参加することにより、運動への意欲と基礎体力向上を図る。</p> <p>③命の教育や地域を知る活動を計画し、人権尊重・地域理解・郷土愛を深める。</p> <p>④地域合同防災宿泊訓練が6回目になり、地域の参加率が年々低下している。今年度も土曜日開催とし、学校及び各自治会双方からと呼びかけ、内容についてもより充実したさせていく。また、八王子医療センターとの連携も進めていく。</p> <p>⑤児童数、生徒数の減少には更なる取組を考える。また、様々な事情で配慮を要する児童等の割合は増加傾向にある。個に応じた指導を充実させていく。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成22年度指定	加住小中学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校経営計画の承認及び経営計画に基づいた各取り組みについての計画及び実施後の報告</li> <li>②教育活動アンケート(保護者アンケート)への対応、改善策</li> <li>③人事構想</li> <li>④児童及びその保護者に関わる重要案件について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中学部1年生による「スクールファーム」の活動の支援および畑の管理</li> <li>②「加住ふれあいコミュニティ」でのお年寄りの活動と児童・生徒との交流活動の推進</li> <li>③学運協主催の「親子料理教室」の開催</li> <li>④加住地区町会自治会連合会や加住地区住民協議会との連携による夏季休業中におけるサタデースクールへの協力</li> <li>⑤学運協委員による職員会議や研修会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①総合的な学習の時間の一つの柱としての活動として実施することで、生徒の体験的な学習を支援することができた。</li> <li>②学校コーディネーターの活用を推進し、地域のコミュニティとしての機能を充実させることができた。</li> <li>③食育に一環として位置づけ、学校栄養士の協力も得て、児童及び保護者に望ましい食の在り方について学ぶ機会を提供できた。今年度は小学部PTAと共催となった。</li> <li>④地域の諸団体との連携を深め、地域運営学校として地域の人材を教育活動の中で有効に活用することができた。</li> <li>⑤児童やその保護者への対応について、学運協の委員がかかわることにより、学校と保護者との仲立ちとなり、円滑な学校運営に寄与することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小中一貫校開校10周年に向けて ・平成31年度は地域運営学校として10年目を迎える。開校からの10年間の実績を確認し今後の方針の確認をする。</li> <li>②コーディネーターの位置づけ・活用 ・理想としては、学運協のコーディネーターの下、学校コーディネーターを活用した事業(土曜の補習学習、漢字検定、算数・数学検定、英語検定等)を展開させたい。委員の皆様も学校コーディネーターの方も多忙であり、新たな事業に取り組むことが難しい状況である。</li> <li>③学校がかかわる重要案件について ・30年度、児童に関する重要案件について学運協が直接的、間接的に関わりをもつことができた。このことにより地域運営学校としての機能を果たすことができた。例月の報告を受け様々な案件について協議を重ねていきたい。</li> </ul>
	愛宕小学校	8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校評価アンケートの調査・研究 ・学校アンケートに見る、児童の自己肯定感を高く保つための工夫を地域として何ができるのか?委員だけでなく、学校を取り巻く人々との協力により、まず自己を大切に、社会への適応力を身に付け「生きる力」を育てていきたい。</li> <li>②情報発信 ・学校でのニーズを発信する事により、地域から協力者を得る事ができる。その協力者が子ども達と直接かかわってくださる事により、やりがいを感じたり、子どもを見る目線を低く保つ事ができると、地域全体での子育ての見守る力が向上してくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①保護者が保護者同士、または学校や教員と連携できる場をいくつも用意している。 図書室管理ボランティア、読み聞かせボランティア、さくらの会(保護者の悩み相談会)、授業サポートボランティア など</li> <li>②学運協の中に、いくつもの実行委員会が存在し、それぞれに活動を行っている。 (漢字検定実行委員会、愛宕Camp実行委員会、放課後子ども教室推進委員会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①②防災訓練や、ピーボクンの家駆け込み体験授業、昔のくらし体験授業、キャリア教育授業、茶道体験、絵手紙体験授業、など多くの方の知識、技能を子ども達へ教えてもらうことができた。 これらの事を保護者の方が知ることにより、「地域に見守られている我が子」を実感でき、自らが直接地域と関わってなくても、その支えられているイメージを伝える事ができたようだ。 保護者による自由相談会「さくらの会」では、小さな悩みを話し合う事により、保護者の学校へのハードルが下がるチャンスになるだけでなく、学校側が見えない「児童の悩み」を受け取る事もできる場となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①継続的に地域の方々から支えていただけるよう、学校側から発信する方法を模索していく。</li> <li>②「愛宕小学校の特色」の認識を共通なものとするため、学運協の役員だけでなく、全教員も一体となって活動を進められるようにする。</li> <li>③地域企業とのコラボも進めていく。</li> <li>④子ども達には、英語、道徳、教育が進んでいくが、保護者の方にもご理解いただけるようサポートしていく。</li> </ul>
	浅川中学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①校長の学校経営計画に関する協議、</li> <li>②各部の活動内容に関する協議</li> <li>③学校予算・決算に関する協議</li> <li>④学校支援に関する協議</li> <li>⑤生徒会役員との懇談を通し、生徒の願いを具現化するための協議</li> <li>⑥学校提案型予算による取り組み状況の報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①②③学校評価や授業評価を学校運営協議会が実施・集計・分析・提言</li> <li>・あさかわ支援の会による教育支援ボランティア活動</li> <li>④部活動支援 ・協議会だよりの発行</li> <li>⑤青少対・PTA・教職員・生徒会と連携した年3回の小中合同あいさつ運動</li> <li>・生徒会役員との定期的な懇談会を持ち、支援する取組</li> <li>⑥学校林くりやまを活用した食育授業や環境学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①②③学校評価や授業評価を学運協が実施することで客観性が保たれ、学校改善が進む。</li> <li>・地域の方が毎日来校する学校になって、大人の目が行き届くようになっている。</li> <li>・職員室前のPR掲示板をリニューアルすることができた。</li> <li>④地域の諸団体との連携力が強まっている。</li> <li>⑤生徒会の要望を聞き、学運協として市に働きかけた。</li> <li>⑥学校提案型予算により、生徒・教員・地域の方の協力で、巣箱・木製フレーム・プランターを入れる木箱を作成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学運協委員の後継者育成</li> <li>②担当教職員以外の教職員の理解を深めること</li> <li>③活動がマンネリ化しないように常に改善を求め協議・実践していくこと</li> <li>④生徒会役員との交流により、生徒と地域の距離が近くなった。具体的な成果が出れば信頼関係も生まれ、なお活動が発展すると考える。</li> <li>⑤英語検定の実施に向けた準備が進んでいる。</li> <li>⑥地域の部屋を有効活用し、地域コミュニティの場をつくる。</li> </ul>
	松木中学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①近い将来を見通した、学運協のあり方について</li> <li>②学力調査の結果をもとに、課題の検討と対策について</li> <li>③浄瑠璃祭りについて</li> <li>④子どもにSNS、ネットとどのように向き合わせるかについて</li> <li>⑤教職員との面談による聞き取りや人事について</li> <li>⑥学運協による保護者アンケートの実施と結果の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学運協の本来のあり方について各学校及び3校合同で話しあった。</li> <li>②夏期休暇及び放課後の学習教室、英検・漢検・数検の実施など学校支援を実施した。</li> <li>③浄瑠璃祭りを2年ぶりに実施。2000名を超える来場者があった。</li> <li>④スマホについて、保護者むけに、学校運営協議会だよりに、保護者会などで注意喚起した。</li> <li>⑤教職員との面談による聞き取りや人事について話し合いをもとに具申書を作成。</li> <li>⑥学運協による保護者アンケートの実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学運協発足8年が経ち、振り返りと今後への取り組み方を再認識できた。</li> <li>②学習教室、各種検定により、学力向上に貢献できた。</li> <li>③浄瑠璃祭りで、生徒の活躍の場の提供、地域のつながりを深めることができた。</li> <li>④学校運営協議会だよりの発行により、保護者や地域に広報活動ができた。</li> <li>⑤学運協と教職員の面談はたいへん重要であり、教職員を知る機会となり、職員室の様子や新年度人事の参考となった。</li> <li>⑥協議会アンケートで保護者への周知の現状や課題を知る事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学運協のあり方を3校で確認できた。次世代の発掘・育成が急がれる。</li> <li>②地域支援講師など人材の確保が最重要課題である。地域支援本部を3校に繋げた活動にしたい。</li> <li>③浄瑠璃祭りは、地域を繋ぐ大きな行事として再確認した。来年度も実施する。</li> <li>④中学生は、スマホやネットと生きていくのだから、中学在学中に必要な情報リテラシーを身につけられるように、考えていく。</li> <li>⑤教職員との面談は続行し、しっかりした人事具申を続けたい。</li> <li>⑥アンケート内容を精査し、学校運営の参考とする。</li> </ul>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成23年度指定	長房小学校	12回	<p>①学運協が関わる行事「地域夏祭り(盆踊り)」「CS子ども夏祭り」「算数教室」「人形劇」「川の学習」「道徳授業地区公開講座」「子ども祭り」「三校地域交流会」「焼き芋」「どんぐり笛づくり」「昔遊び」等の実施計画について</p> <p>②長房ファームでの野菜作り(8月末で終了)や各祭りへの出店計画と準備について</p> <p>③子どもの基礎学力の向上について</p> <p>④周年事業の取り組みについて</p> <p>⑤すまいる(放課後子ども教室)への協力について</p>	<p>①地域・保護者・学校と連携した取組を行う。</p> <p>②地域の夏祭りに学運協として出店し、広報活動につなげる。</p> <p>③広報誌「山椒」を発行し、地域内にも配布する。</p> <p>④長房ファームで収穫した野菜を給食の食材として提供する。</p> <p>⑤子ども一人一人に整理用ファイルを寄付し、朝学習(算数)を支援する。</p> <p>⑥50年の節目として、地域と連携した周年事業を行う。</p> <p>⑦地域で地域の子どもを見守る「すまいる(放課後子ども教室)」の体制を整える。</p>	<p>①地域・保護者・学校と連携した取組が実施できた。地域夏祭りやCS子ども夏祭り、算数教室など児童の参加人数が増加した。</p> <p>②地域の夏祭りに学運協として出店し、広報活動につなげた。</p> <p>③広報誌「山椒」を年4回発行し、地域内にも配布した。</p> <p>④長房ファームで8月まで収穫した野菜を給食の食材として提供できた。</p> <p>⑤子ども一人一人に整理用ファイルを寄付し、算数の朝学習を支援した。</p> <p>⑥開校50周年記念誌、横断幕、校旗、冠頭修理、記念品等周年事業に必要な環境を整えた。</p> <p>⑦すまいる(放課後子ども教室)の推移委員、学習アドバイザー、安全管理員等の組織を整え、平成31年1月から週5日開催することができた。</p>	<p>①地域・保護者・学校との連携をさらに密にして、スムーズな企画・運営を図る。</p> <p>②子どもの基礎学力向上への支援に引き続き取り組む。</p> <p>③船田小学校、長房中学校と連携した学運協の在り方を時間をかけて検討する。</p> <p>④長房小学校西側の空き地に開発される地域密着型の事業「きらり☆長房ローカル・ネットワーク」が決定され、その一環として、2019年秋頃には、長房ファームが再出発されることを期待する。</p>
	柏木小学校	11回	<p>①市制101年の本年、次の10年を見据えて、地域の文化や歴史を発掘し、古地図を作成する。</p> <p>②放課後教室「かしかし」の運営の見直しと算数補習教室の新設を進める。</p> <p>③『「地域の声」掲示板』を作成し、自分や友達の活躍を確認できるようにすることで自己肯定感を培う。</p> <p>④学運協だよりに配布する等、学運協の活動の「見える化」を進め、活動を周知していく。</p>	<p>①地域の文献や資料にあたり、学区の歴史を発掘し、地図のかたちでまとめた。</p> <p>②シルバー人材による新しい運営体制を構築し、「かしかしの利用の仕方について」をまとめつつある。</p> <p>③『「地域掲示板」』をつくり、地域活動や地域連携校の情報の紹介をした。</p> <p>④校内掲示板を活用し、学運協としての発信した。</p>	<p>①子どもまつりの際、保護者に古地図を見てもらい、地域住民としての帰属意識の確立を図った。</p> <p>②放課後教室「かしかし」の運営を安心の中で行えるようにし、児童の規範意識の向上にも繋げた。</p> <p>③クリーンデーの取り組みを中心に「役に立った自分」を確認させ、自己有用感を育む一助としてきた。</p> <p>④学運協の活動の「見える化」により、保護者・地域からの協力者の拡大につながられた。</p>	<p>①今後も地域マップの作成を継続し、常に地域の変化を意識をもち、学校と地域をつなげていく。</p> <p>②今後も放課後教室「かしかし」を中心として子どもの見守り体制を強化し、地域と学校で子どもを育てていく。</p> <p>③今後も「人の役に立った自分」を確認できる仕組みをさらに整備し、自己有用感を育むようにしていく。</p> <p>④今後も学運協の活動の「見える化」により、協力者拡大につなげ、地域と学校の関係を強化していく。</p>
	南大沢小学校	9回	<p>①学校の問題・課題を教職員と学運協委員や評議委員がともに話し、考える場を設定し、学校ではどんな支援を必要としているか、必要な支援に学運協委員がどのように応えていくか明らかにしていく。</p> <p>②児童減少に対して、学校についての広報活動をいかに活発にしていけるか。</p> <p>③八王子市の施策としての小中一貫校への移行について、どう対応していくか。</p> <p>④学運協と学校コーディネーターが中心となり地域住民等の教育活動への幅広い参画を促進し、学校と連携しての教育的人材開発を行う。</p>	<p>①地域連携の重要性、学校を核とした地域づくりをする意識の向上、学校を地域のものとする考え方の浸透、地域内及び、学校と地域の連携強化を実現する方法としての学校園の活用工夫。</p> <p>②児童の郷土愛が育まれ、学校や地域に愛着をもてるようになり、地域の方の教えを得ることで、児童が地域の一員としての自覚をもつ。地域の方をゲストティーチャーとして招き、戦争体験を聞いたり地域の昔遊びや稲作に関わる様々な体験活動を実施したりする。</p> <p>③学運協が、学校説明会・新1年生保護者説明会で学校の魅力やを紹介する。</p> <p>④保幼小連携をしている園に学校園で作物を育てる取組をする。</p>	<p>①②教員から直接教育活動に必要な地域の教育的人材について聞き取り、地域の組織等にも働きかけ、人材を紹介してもらい、ゲストティーチャーや学習ボランティアとして学校に関わってもらった結果、行事を含めた教育活動に関わってくれる方が多くなった。</p> <p>③児童数の減少傾向が進む中、近い将来小学校へ入学する児童やその保護者に対して、学運協や地域から見た学校の魅力を学運協が発信することで、学校自身が発する情報では理解しきれない本校の魅力を知らせた結果、学区内に住む学齢児童のほとんどが、本校への入学の意思を示してくれた。更に、学区外からの入学希望者が増えた。</p> <p>④保幼小連携をしている園に学校園で作物を育てる取組みができた。</p>	<p>①次年度も学運協と学校コーディネーターが中心となり地域住民等の教育活動への幅広い参画を促進し、学校と連携しての教育的人材開発を行う。</p> <p>②取組状況や学校の魅力・放課後の児童の受け皿について、未就学児の保護者を中心に多くの人に発信することで、小規模校での学校教育の利点を理解してもらい、児童減少傾向に対応する。</p> <p>③引き続き、教職員が直接学運協委員と話し合う場を設け、学校の課題を共有した上で、地域の教育的資源の発掘と学校教育への参画を促進する。</p> <p>④ホームページや広報誌等を活用したり、学校説明会・新1年生保護者説明会で学運協が、学校の魅力を紹介していく。</p>
	松木小学校	11回	<p>①今後の、先を見据えた、学運協の在り方について</p> <p>②目標をもって学習に取り組む姿勢を養うことを目的に、漢字検定を実施し、運営を学運協で行う方策について</p> <p>③学運協委員と教職員との懇談会について</p>	<p>①学運協の活動報告や活動実施に向けての議論だけでなく、学校運営協議会自体の在り方について深く議論を行った。</p> <p>②漢字検定では、保護者・地域の方によるボランティアを募集し、検定準備・当日の監督等を分担する。成績上位者は朝会で表彰し、意欲の向上を図る。</p> <p>③昨年に続き、学運協委員と教職員との懇談会を11月に実施し、グループ分けを行い、ワークショップを開催した。</p>	<p>①深く掘り下げた議論をすることで、学運協委員同士のつながりも一層強まり、初心に戻り、これまでのフィードバックを行うことが出来た。</p> <p>②全学年の希望者対象で、101人が参加し、各自が目標とする級に挑戦した。保護者・地域ボランティアも10名参加。最優秀賞1名、優秀賞3名、努力賞3名を表彰し、漢字検定を目標に、日ごろの漢字学習に意欲的に取り組む児童が増えてきた。</p> <p>③ワークショップを通じた教職員との情報交換により、お互いに知る機会となり、教職員の想いや考え方も吸い上げることが出来た。そのことで、教職員との距離もより一層縮まり、連携して学校運営を考えていく良い機会となった。</p>	<p>①改めて、来年度の目標設定を行ったので、その目標に向かい鋭意努力していく。また、新しい人材の発掘と育成は、喫緊の課題である。</p> <p>②受検者が増えると運営者の負担が大きくなるため、役割分担できる人材確保が課題である。</p> <p>③教職員との懇談は継続し、より一層の連携強化と、より良い学校運営の向上を目指すべく、努力していく。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成23年度指定	長池小学校	12回	<p>①第2回学校運営協議会主催漢字検定について ・学校をサポートするための学校運営協議会主催の活動として、今年度も漢字検定を実施していく。</p> <p>②三校合同学校運営協議会主催の活動として、浄瑠璃祭りを実施していく。</p> <p>③学校運営協議会アンケートについて ・年度は松木中学校、松木小学校と同時期に同じ内容でアンケートを実施していく。</p> <p>④学校運営協議会主催保護者向け子育て支援講演会 ・松木中学校、松木小学校からも参加者を募り、保護者向け講演会を実施していく。</p>	<p>①平成30年10月27日(土)に第2回漢字検定を実施した。参加児童119名、ボランティア等スタッフ約20名で円滑に運営することができた。</p> <p>②平成30年11月23日(金)に第6回浄瑠璃祭りを実施した。天気にも恵まれ来場者1920名、スタッフ336名の参加があった。</p> <p>・平成30年12月中に学校運営協議会アンケートを実施した。設問は7項目。最後の項目は記述式で意見とともに改善点も記入するように設定した。回収率は68%。</p> <p>③平成31年2月26日(火)に明星大学教育学部教授星山麻木氏による「やさしさとあたたかさ」の演題で子育て支援講演会を実施した。前半は保護者、後半は教員も参加し、総勢80名近くの参加になった。</p>	<p>①去年に引き続き実施した第2回漢字検定であったが、昨年から引き続き受験する児童も多く、受験に向けて自主的に学習に取り組んでいる様子もうかがえた。</p> <p>②昨年度は実施しなかった第6回浄瑠璃祭りであったが、参加者数も多く、模擬店やイベントなどを通して地域の子供と大人の交流場として定着してきている。</p> <p>③昨年初めて実施した協議会アンケートより若干回収率が下がった。学校運営協議会の認知率は学年進行に従って高くなる傾向が見られた。低学年の保護者を中心に学校運営協議会の活動について周知していく必要があると考えられる。</p> <p>・子育て講演会は保護者と教員が参加したことにより意義のある会になった。参加した保護者から周囲の保護者へ拡散していく効果を期待したい。</p>	<p>①平成32年度も継続して漢字検定を行うことで、児童や保護者への認知度も上がり、受験者する児童の増加も見込めると考えられる。学校運営協議会のこうした活動が、学校での漢字学習に与える影響も少しずつ大きくなっていくと期待したい。</p> <p>②浄瑠璃祭りは地域住民の交流の場として定着してきているので、今後、実施主体が地域に移行できるように継続した議論が必要かと思われる。</p> <p>③協議会アンケートを実施することで保護者の協議会への認知度の高まりや活動内容の周知につながっていくので継続して実施していきたい。</p> <p>・保護者と教員が交流できる今回のような講演会を実施することで、参加した保護者が周囲に発信して意識の高まりが期待できると考えられる。</p>
	南大沢中学校	10回	<p>①南大沢地区の児童、生徒の減少に伴う、小学校、中学校の在り方に関して協議を行った。</p> <p>②音楽鑑賞教室を、広く地域、保護者に参加を、呼びかけ南大沢地区の伝統的な取り組みとし、地域と学校の連携・協働に向けた取組となるよう協議を行った。</p>	<p>①南大沢中学運協、柏木小学運協、南大沢小学運協で、数回にわたり合同協議会を実施。</p> <p>②学校公開日に体育館を使用し、音楽鑑賞教室を実施した。</p>	<p>①3校の合同協議会(柏木小・南大沢小・南大沢中)で小中一貫校を南大沢地区に設置することで、合意できた。</p> <p>②学運協が実施することで、学校と地域が相互に協力する関係が築かれ、より開かれた学校になることができた。</p>	<p>①小中連携を進めていくためには、合同で学運協を開催していくことが有効であるが、小中一貫校を進めて行く上では、今後の合同協議会の運営方法について見直しを行い、充実した会議にしていく必要がある。</p> <p>②これまで行ってきた活動がようやく地域に根付き、学運協に対する地域や保護者の理解・協力が得られるようになってきたため、その体制を継続していくための取組を実施していく。</p>
平成24年度指定	横山第一小学校	12回	<p>①日頃の児童の学校生活の様子や学力・体力調査などのデータをもとに、学校経営や教育活動の方向性、学校運営の進捗状況の確認と検討・協議</p> <p>②児童の生活指導面や放課後の過ごし方(校外での自転車の乗り方、放課後子ども教室での事故防止等)について、学校・保護者・地域とが連携した改善策の協議</p> <p>③子どもたちに豊かな体験活動をさせるための、『放課後子ども教室』や地域活動(漢字検定、オータムキャンプ・どんど焼き・地域防災など)の活動についての協議</p>	<p>①豊かな学びのために、地域協力者(箏演奏:渡邊シズエ先生、書道指導:宮崎節子先生)を活用した専門的な指導を行った。また、近隣の大学の東京家政学院大学との『小大連携』を学校コーディネーターを窓口にも充実を図った。</p> <p>②けがや事故が危惧される“自転車の乗り方”や“放課後子ども教室での行動の仕方”について学運協会長の連名で、各家庭・地域へ文書を配布し、啓発を図った。</p> <p>③地域協力者(元幼稚園教頭:百瀬シズ子先生、熟経営:橋山晃子先生による放課後補習教室、スポーツ推進委員によるネオテニス・ポッチャー教室、トレンズコーチによるバスケット教室、浅川児童館の出張児童館など)に多く参画していただいた放課後子ども教室の実施。また、専門部会(子育て部会)を中心に民生児童委員や関係機関との要配慮児童・家庭への支援会議を実施した。</p>	<p>①箏指導を受けた児童の演奏技術が飛躍的に伸び、青少対桐田地区委員会主催の『ふれあい桐田祭』や市民祭の『三曲演奏会』で、多くの賞賛を得られた。また、書道指導を活かし、『おおいり展(書写展)』へ出品していた。</p> <p>②『放課後子ども教室での参加の仕方』『校外での自転車の安全な乗り方』の保護者・地域向け文書が効果を発揮し、特に、放課後子ども教室で粗野な振舞いをする児童が激減した。</p> <p>③放課後子ども教室の開催予定の年間126回がほぼ達成できる状況にあり、学校の年間授業日の半数の日の開催ができたことになる。開催が安定して行えたこと、また、さまざまなイベントや補習教室があること、そして、けがやトラブルに対して、学校職員も積極的に関わって対応しているなど、地域・保護者と学校との協働体制が効果的に進められていた。</p>	<p>①地域の人的資源を活用して、子どもたちが多様な体験活動に意欲的に取り組める場を、学運協を核にして設定していくことは、箏曲の演奏や書道に留まらず、重要なことと考えられる。これからも、地域人材を発掘したり、近隣の大学等との連携を深め、活動を充実させていく。</p> <p>②児童の安全確保から、各家庭への啓発と関係諸機関との連携を図ってきた。今後も、価値観の多様化にある各家庭への呼びかけを行い、児童のモラルとマナーの向上を進めていく。また、一時避難所としての学校の役割から、地域防災訓練や学校職員と学運協委員による『図上訓練』を行っている。来年度以降も、地域とともにある学校として、地域安全の一翼を担っていきたい。</p> <p>③多くの団体・機関の協力を得て、充実した放課後子ども教室が実施できた。しかし、保護者によるボランティアのなり手不足の状況の深刻さがある。今後、放課後子ども教室を安定的に継続していくためには、担い手の人材の確保が大きな課題となっている。</p>
	上川口小学校	6回	<p>①NPO法人と連携した体験学習(稲作)についての取り組み</p> <p>②学力向上、心の育成、学校行事、地域行事等、学校と地域の連携した活動の取り組み</p>	<p>①地域はNPO法人の地域おこしの新しい取り組みの一貫として、水田の再開発へ取り組んでいる。その一部の水田を活用して学校の行事として稲作を組み入れた。</p> <p>②継続した読書活動、学力向上への支援、児童の学習支援・心の育成、学校美化活動、地域行事等に取り組み、学校と地域が協働できた。</p> <p>・年15回の読み聞かせ活動を行った</p> <p>・道徳授業地区公開講座を共催した。</p> <p>・サマースクール5日間開催した。</p> <p>・地域人材を活用したいのちの日の学習や各学年の学習活動を展開した。</p> <p>・運動会等の行事や地域の夏祭り等で協力できた。</p> <p>・地域防災活動を連携してできた。</p> <p>・年5回の学校美化活動ができた。</p>	<p>①②地域の方の生きがいの場と共に協働体制が図られた。</p> <p>・ボランティア参加により、学力の向上と安全等が充実した。</p> <p>・学校(教員)に協力する具体的な活動が明確になった。</p> <p>・教育活動が活性化した。</p> <p>・関わり合った方を大切にすることで思いやりの心、郷土愛、愛校心等道徳教育の充実が図られた。</p> <p>・地域の人、物、自然の繋がりを知り、学ぶ楽しさや学ぶ意味を知ることができ、学習意欲の向上が図られた。</p>	<p>①②・授業時数の確保、少子高齢化による地域協力者の減少、各家庭の就労による学校教育協力への多忙感等の現状で、各種取り組みへの難しさがある。学校でできること、地域でできること、保護者でできることを明確にし無理なくスムーズな活動ができるように定着を図ることが今後必要になっている。</p> <p>・学校として各行事の精選や学習指導計画、指導方法の工夫により、授業時数の確保、学力の定着、思考力の向上、心の育成等を図ると共に、地域、家庭の教育力を有効に取り入れていく教育課程編成を見直していく。</p>



	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成24年度指定	恩方中学校	9回	①子どもの健全育成及び学力向上について ②教育活動の充実、学校運営協議会の活動周知について	①「放課後基礎教室」を開催し、個々の状況に応じた学習支援を行う。 ・英語の力を測定する検定を準会場として実施する。 ・子どもの健全育成に向けて交通安全見守りや防災教育に取り組む。 ②夏季休業日を利用して、地域住民と生徒、教職員による教育環境の整備を行う。 ・HP等を通じて、地域運営学校の趣旨や活動内容について周知する。	①放課後基礎教室の整備が整い、子どもの参加人数が増加した。 ・英語検定への関心が高まり、合格者が増加した。また、小学生の希望者も受け入れた。 ②青少年対策恩方地区委員会と連携を図って取り組むことができた。子どもに学校を大事にする気持ちを育ませるとともに、地域における世代間交流を図ることができた。 ・報告やたよりを通して、活動内容を周知することができた。	①学習支援に対する取り組みの一層の充実 ②教育環境の一層の整備 ③地域連携の推進
	由木中学校	11回	①学校関係者評価 ②いじめ、不登校について ③学校経営計画、教育課程届について ④教育目標の見直しについて ⑤学校保健について ⑥花いっぱいプロジェクトについて ⑦由木中生の姿と思いについて ⑧ボランティア活動の推進について	①学校関係者評価を行う。 ②いじめ及び不登校について意見をもらう。 ③基本となる教育計画について提言をもらう。 ④教育目標見直しの是非も含めて意見をもらう。 ⑤学校保健委員会に参加して生徒の実態について知り、意見をもらう。 ⑥花壇整備に参画してもらう。 ⑦全国学力調査の生徒質問紙を集計したものについて考察してもらう。 ⑧学校の特色でもあるボランティア活動の場を紹介してもらう。	①学校評価に生かすことができた。 ②学運協委員に実態を知ってもらうことができた。 ③社会に開かれた教育課程を推進することができた。 ④「社会性」を強調するなど方向性は定まった。 ⑤生徒の健康面の実態と課題について把握してもらえた。 ⑥ボランティアの生徒・保護者の参加を得ることができた。 ⑦由木中生の実態を把握してもらえた。 ⑧後押ししてもらった。	①学校関係者として、見て、聞いて、感じて評価してもらう。 ②具体的な事例について意見をもらう。場合によっては対応に加わってもらう。 ③よく理解して、参画してもらう。 ④来年度こそ具体案に落とし込み、教育目標改善を断行する。 ⑤地域、家庭に発信してもらう。 ⑥継続的に実施すること。 ⑦継続的にいき、変化も見取ってもらう。 ⑧人のために働くことに喜びを見いだす生徒になってもらう。
平成25年度指定	第二小学校	8回	①保護者に対して、防災教育の重要性を一層啓発していくことが大切である。 ②保育園・幼稚園・小学校・中学校各段階において身に付けさせたい力を明確にし、小中が同一歩調で、意図的、計画的に教育活動を推進することが大切である。 ③年間を通して、学運協の委員を中心とした放課後補習学習の充実を図る。	①12町会・八王子消防署・八王子市防災課と連携した防災訓練の運営に、保護者の参画を仰いだ。消防団にも連携を依頼した。 ②第二小学校、第四中学校の校内研究日に小中合同の学運協を開催し、小中のつながりを意識した教育活動について協議した。また、校内研究会に参加するだけでなく、小学校教諭が保育園で読み聞かせをしたり、中学校教諭が小学校の低・中学年の授業の補助をしたりする場面を設定するなどして、保小中連携の更なる充実を図った。 ③各学期末に、復習を重点とした補習学習を実施した。	①7つの防災ブースを開設し、児童体験型の防災訓練を10月13日(土)に実施した。各ブースを12町会の会長・防災担当・保護者が運営を行った。また、新規に消防団にも参加してもらい、ポンプ車の見学と消火体験に携わってもらうことができた。町会長からも、「訓練がすっかり軌道に乗ってよかった」との感想を得た。 ②保育と教育の共通点や相違点、また、小中を見据えた教育について、教員の見識が広がった。また、小中連携に対しての保護者の理解が大きく高まった。 ③「東京都学力定着度調査結果」によると、学力最下位層であるD層の児童が、平成29年度の34%から、平成30年度は17%と半減した。	①市役所施設管理課・防災課、消防署、消防団、八王子防災協会との連携を維持・深化しながら、保護者の参画意識を一層高め、地域が主体となった防災訓練へと発展させていきたい。 ②小学校は、学習指導要領の移行期間最終年度を迎える。中学校の改訂学習指導要領の趣旨にも触れながら、一層の相互理解を図る必要がある。 ③復習を重点とした補習学習の一層の充実を図り、C層の学力向上を目指す。
	高倉小学校	10回	①放課後子ども教室の開催回数の増加と、学習できる場の検討。それに伴う学習アドバイザーの人材確保や、実現に向けての課題検討 ②学運協としてのオリンピック・パラリンピック教育への取り組みについて検討	①校内と放課後子ども教室推進委員会と学運協で、具体的に実施回数を増やすことを検討した。学習についても、場所や用具、人材確保について情報交換を行った。 ②学運協会長が、レクリエーション協会の会長でもあることから、「ニュースポーツ」を子どもたちに体験させる取り組みを行うこととした。	①来年度から、放課後子ども教室が『原則、毎日開催』に決定した。学習アドバイザーも地域の町会の方や本校保護者OBの方が、年間通してかかわってくださることになり、4月から実現する運びとなった。 ②来年度は、1～6年生それぞれの学年ごとに「ニュースポーツ」を体験する。ニュースポーツ・デイ！を開催し、学運協委員がゲストティーチャーとなって、オリパラ授業を行うこととなった。また、今の子どもたちは「体験格差」もあるのではないかという問題意識から、学期に一回程度、土曜日に「ニュースポーツ体験」の活動を行うことを計画している。	①オリンピック・パラリンピック教育の高倉小学校2020レガシーを、継続的なものにしていくよう、教務と相談しながらカリキュラムに入れ込んでいく。 ②放課後子ども教室の「学習」が定着したら、都立八王子東高校の学生ボランティアを募集する予定である。(東高の校長先生には内諾を得ている。)

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成25年度指定	高嶺小学校	11回	<p>①「学力向上」を達成するための学校と保護者、地域と連携した取組の継続と充実について ・「放課後補習教室(くすの木教室)」の実施方法と参加促進について検討。年間2回の漢字検定の実施に関する協議</p> <p>②「豊かな感性」「自己肯定感」「自己有用感」の育成につながる環境美化活動について ・親子草取り、花の苗の植え付け、地域クリーン作戦への参加促進に関する協議。焼き芋大会、餅つき大会等、世話人会や放課後子ども教室、青少対と連携した取組の充実について検討</p> <p>③児童の安心・安全な生活を確保するための学運協の役割について ・「総合防災訓練」の開催について検討・協議 ・安全ボランティアの活動に関する情報交換</p> <p>④その他 ・学運協の活動の充実と保護者や地域住民への理解啓発を図る取組の検討等</p>	<p>①「学習支援部」が中心となった地域の学習ボランティアによる「くすの木教室」の実施 ・算数科における児童の基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を目指し、東京ベーンシック・ドリルを活用した学習教室を年間50回程度実施</p> <p>②「子ども保護者支援部」が中心となった研修会の開催 ・11月「子どもの未来を切り開く『自己肯定感』を育む」をテーマに教職員、保護者、地域住民を対象とした講演会を実施 ・「環境美化部」「体験活動部」協働による活動 親子草取り(5・10月)、環境美化活動(随時)、焼き芋大会(12月)、餅つき大会(1月)</p> <p>③総合防災訓練の開催 ・自治会と中学校、消防署等と連携した、本校を避難所とした総合防災訓練の実施(10月)</p> <p>④三校学校運営協議会の開催(年間3回) ・近隣三校の学運協と合同会議を開催し、情報交流を実施 ・事務局による情報発信 学校運営協議会通信の発行(6回/年)、学校HPにて学運協の会議内容について掲載(11回)</p>	<p>①②各部会が連携・協働した活動を展開することで、学校と家庭、地域とが一体となった教育活動の充実が図られ、学校の教育目標の達成に向けた取組を実践することができた。</p> <p>③自治会が中心となった防災訓練に、中学校の全校生徒と教職員の参加や、消防署を始めとする消防団、赤十字等地域住民の参画することで、地域全体の防災意識が高まっている。</p> <p>④小中学校三校の学運協の委員が合同会議を行い、各学校の状況や学運協の活動について情報交流を行うことで、小中学校のつながりの強化や地域全体で地域の学校を支援する基盤の構築が図られている。 ・学運協や地域運営学校としての認識が広がり、学校の教育活動への理解が深まり、学校の教育活動に協力的に参加する保護者、地域の方が増えた。</p>	<p>①各部局が中心となって実施した取組を通して築いた地域との結びつきを生かし、保護者・地域住民の学校教育への参画を促し、地域に開かれた教育課程を目指す。</p> <p>②環境美化活動の実施計画の作成と、積極的な参画への促進</p> <p>③地域の町会・自治会や関係機関、中学校と連携した地域防災訓練の充実</p> <p>④関係機関との連絡・調整と、会議日時の設定、内容の充実 ・情報発信の継続と内容の充実 ・保護者、地域住民の理解啓発を図る情報ツールの拡充</p>
	ひよどり山中学校	10回	<p>①本校の教育活動に対する理解と協力を図るため、学校行事への参観・参加等を学運協委員・PTAと連携し、地域・町内会等に積極的に働きかけた。</p> <p>②学校コーディネーターと学運協委員との連携により、学習ボランティア等を募集・確保し、その活用等について充実を図るよう協議して取り組んだ。また、総合的な学習の時間に実施する農業体験学習の一層の充実のため教職員、農業アドバイザーとの連携、協力、打合せを行った。</p> <p>③地域連携行事(青少対行事、地域地子連、センター祭等)への学校の参加の在り方について協議した。</p>	<p>①地域の人材を生かし、地域に根ざした地域と協働する特色ある学校教育を実現することを目的に、「学力向上部」「農業振興部」「地域支援部」を設置し、熟議を重ね、地域運営学校づくりに取り組んでいる。</p> <p>②学力向上部 生徒の学力向上・支援を目指し、定期考査前に放課後学習を実施した。また、夏休み学習教室を5日間実施した。 ・農業振興部 総合的な学習の時間で農業体験学習を支援し、を充実させる。</p> <p>③地域支援部 学校施設を利用(地域子ども会キャンプや市農業塾講義への施設貸し出し等)し、学校と地域との連携を深めるために地域行事(青少対行事・地域祭等)に吹奏楽部生徒・生徒有志和太鼓演奏を行った。</p>	<p>①年度末に実施した学校評価アンケートや地域諸会議等の報告から、本校が地域の青少対等と連携して取り組む行事(ひよどり山音楽祭・クリーン作戦等)に参加していることについて肯定的な意見が寄せられた。</p> <p>②学力向上の取組として、夏季休業期間と放課後の学習教室が安定的に実施できた。また、授業等での学習補助ボランティア(技術科木工学習補助や保体科剣道指導等)による支援が得られた。</p> <p>③教員と学運協委員・PTAが三位一体として生徒有志による和太鼓の演奏活動を運営・支援することができた。</p>	<p>①総合的な学習の時間に実施する農業体験学習では、学運協委員の働きかけにより、年間を通じて農業アドバイザーが確保できたが、高齢化による時期を担うアドバイザーへの引き継ぎが課題である。</p> <p>②学校と連携して取り組む行事等の活動計画(青少対行事、自治会行事、学力向上のための学習教室日程、学習支援計画等)について、年度当初に一覧にまとめ「見える化」を図り、具体的な活動に向けて準備・共通認識を深めることにより、継続的に取り組みたい。</p> <p>③有志和太鼓演奏(ひよどり太鼓)を本校の2020オリンピックレガシーに位置づけた。学運協・PTAと連携し三位一体で今後も取り組んでいきたい。</p>
	由井中学校	8回	<p>①自治会と連携した防災支援部会による避難所運営・炊き出し訓練を引き続き実施する。(運営面の分担と生徒の活動割り当ての修正)</p> <p>②教育支援部会では、スーパーサイエンス・テクノロジー授業(科学実験教室)を行うに当たり、企業との打ち合わせを実施する。ファンドを維持させ生徒達の部活動や教育機器に有効に活用できるようにする。</p> <p>③地域連携部会では、各町会自治会で行われる、地域行事(夏祭りなど)に生徒が参加できるように調整する。</p>	<p>①本校で実施している防災訓練では由井中学校が全校参加し、地域の担い手として中心的に動き多くの成果を収めている。</p> <p>②地域貢献や行事への積極的な参加により、アンケートで由井中生の自尊感情・自己有用感が有意に高い結果を毎年だしている。</p> <p>③教育支援部会で計画していたスーパーサイエンス・テクノロジー授業(科学実験教室)を6月に実施、生徒全員に興味、関心を持たせられて、科学的な実験授業を行っている。ファンドについて動き出し教育活動に活かしている。</p>	<p>①本校で実施している防災訓練では由井中学校が全校参加し、地域の中心的な担い手として動き、多くの成果を収めることができた。</p> <p>②地域貢献や行事への積極的な参加により、アンケートで由井中生の自己有用感が有意に高い結果が得られた。</p> <p>③教育支援部会で計画していたスーパーサイエンス・テクノロジー授業(科学実験教室)を6月に実施、生徒全員に科学的な実験授業を展開し、興味・関心を持たせることができた。ファンドについて順調に動かし、各部活動等の教育活動に活かすことができています。</p>	<p>①由井中学校の学区の町会・自治会単位で連携して防災訓練が行えるかどうかを検討する。</p> <p>②地域貢献を目的に、町会・自治会の行事に積極的な参加を促していく。中学校、地域からの情報を互いに連絡し合い、地域と中学生がスムーズに組織の中に入れるよう連携していく。</p> <p>③スーパーサイエンス・テクノロジー授業(科学実験教室)を今年度も6月に実施した。今回は海洋の授業としても、1年から3年生まで授業を展開できた。平成31年度は各学年での内容の定着が図られるよう進めていく。またファンドは、各部活動等から必要なものを挙げさせ、有効利用し活動の一助になるようにしたい。</p>
	中山中学校	11回	<p>①PTA杉の沢会との連携について</p> <p>②学運協主催による検定事業の実施について</p> <p>③総合防災訓練実施について</p>	<p>①環境整備のための花壇の受け替えをPTA杉の沢会の文化厚生委員会と連携して、時間帯によっては、生徒への周知を行い、地域・保護者・生徒が一体となって取り組む。</p> <p>②英語検定1回、漢字検定2回を学運協主催で実施し、生徒の学習意欲の向上に地域も関わる。</p> <p>③地域の総合防災訓練に学校が加わることで、地域の防災力の向上を図る。</p>	<p>①環境整備に向けて、効率化が図られたとともに、地域・保護者・生徒が関わる取組が実施できたことは、今後の大きな展望となる。</p> <p>②学校の教育活動に地域も大きく関わることができ、生徒にとって地域の人に見守られているという実感を持たせることができた。</p> <p>③昨年度は、午後からの実施であったため、生徒の疲労感が見られた。反省を踏まえ、午前中の実施と学年の振り分けを一部変更したことで、防災訓練の意義が高まった。</p>	<p>①年間計画を立てることにより、PTA杉の沢会と生徒会との関係がさらに強化していけると考える。</p> <p>②期日が決まっていることから、試験監督等の人材を早めに決定することと、経験者が継続することで、効率が図られる。</p> <p>③1年生は普通救命講習、2年生は地域の方と一緒に体験のパターンは確定し、無理なく行えるが、3年生は活動の内容がその都度変更してしまうことから、割り振りが課題である。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成26年度指定	第五小学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①本校教育活動の推進について</li> <li>②放課後子ども教室の運用について</li> <li>③地域合同防災訓練のさらなる充実について</li> <li>④学力向上をめざした「寺小屋事業」の実施について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①オリパラ教育の推進</li> <li>②放課後子ども教室について、室内や校庭での活動の充実</li> <li>③地域と連携した地域合同防災訓練の推進</li> <li>④学力向上をめざした「寺小屋事業」の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①児童だけでなく、保護者にオリパラ教育の意義を理解させることができた。</li> <li>②学校だけでなく、地域や保護者もかかわることで、それぞれの取組が活性化し、子供たちの活動の意欲が高まった。</li> <li>③防災の意識向上が、学校だけでなく、家庭・地域にも広がった。</li> <li>④確かな学力を定着させることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も、学校だけではなく、地域や保護者とのかかわりを重視し、それぞれの取組が活性化させることが重要である。</li> <li>○さらなる確かな学力を定着させることが重要である。</li> </ul>
	清水小学校	9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学力向上について(補習や漢字検定の実施)</li> <li>②あいさつ運動に、学校・家庭・地域で協力して取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎週金曜日に補習を行い、地域の学習ボランティアに協力していただく。漢字検定を1月に行い、地域や保護者のボランティアに協力していただく。</li> <li>②PTAあいさつ見守り活動への呼びかけを行う。学校安全ボランティア会議を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①補習の時間に、学運協委員の紹介で地域の9名の方が学習ボランティアとして協力してくださった。学習ボランティアの人数が確保できたために、教員と学習ボランティアが協力して、より丁寧に補習を行うことができた。児童も、個別に対応して下さる補習のボランティアの方に親しみをもち、学習を進めることができた。漢字検定では、中野北小学校が本校の副会場として受験できるようにした。学運協委員で申込み手続きや当日の監督者募集などを行うことができた。</li> <li>②PTAあいさつ見守り活動への参加者が増えてきた。学校安全ボランティア会議に保護者にも参加してもらい、あいさつや見守り活動について理解を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①来年度は、補習を必要とする児童に絞り、補習を行う。個別に指導して底上げを図ることを重点としたので、地域学習ボランティアの人数をさらに増やし、より丁寧に児童の学習支援を行っていく。</li> <li>②登下校時のあいさつは、進んでできる児童が増えてきた。6年生や代表委員会のあいさつ運動とともに、大人のあいさつ見守り活動も引き続き行い、あいさつがさらに活発にできるように働きかけていく。</li> </ul>
	宇津木台小学校	9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子どもたちの健全育成や円滑な学校運営のために、学校運営協議会(学校地域支援本部)としてできる具体的な方策の検討</li> <li>②保護者や地域住民への啓蒙活動の在り方</li> <li>③校長の学校経営に対する支援や助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校支援本部が中心となり、ボランティアを募り、「放課後わくわく算数教室」やサタデースクール、漢字検定などを実施した。</li> <li>②サタデースクールでは、南極クラブや親子ドッチボール、親子着付け教室や星空シアター、クリスマスリース作りなど、親子で参加できる活動を数多く実施し、学校支援地域本部の活動状況の理解を深める機会を多く持った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①サタデースクールに参加する親子が年々増えている。また、「放課後わくわく算数教室」にも多くの児童が参加し、活気溢れる活動になっている。漢字検定も年2回行い、本校の児童だけではなく、保護者や地域の方の受検の年々増えている。</li> <li>②南極クラブや異文化交流会、親子ドッチボール・着付け教室、グランドサッカーや星空シアター、クリスマスリース作りなど、多くの保護者が子供たちと参加するようになり、地域運営学校の趣旨が浸透してきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各種の活動に多くの先生方が参加してくれるようになり、子どもたちも楽しそうに生き生きと活動している。これからも先生方の参加をお願いしたいと考える。また、この活動を長く続けるには、後継者の発掘や育成が重要であるが、現状のところなかなか目処がたないのが今後の心配点である。</li> <li>②新入生の保護者や新たに宇津木台小学校へ赴任されてきた教職員への普及・啓蒙活動も引き続き行っていく必要がある。</li> </ul>
	式分方小学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「コミュニティ・スクール」を保護者・地域へ発信</li> <li>・開校40周年の記念行事に関して、学校・PTAと協議</li> <li>②地域人材(ボランティア)の拡充</li> <li>・夏休み体験講座「わくわくサマースクール」の講師に募集に関する協議</li> <li>・「ちょこっとボランティア」の募集や学校行事や授業等の支援ボランティアに関する協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「コミュニティ・スクール」を保護者・地域へ発信</li> <li>・開校40周年の記念行事を行う。</li> <li>②地域人材(ボランティア)の拡充</li> <li>・夏休み体験講座「わくわくサマースクール」の開催</li> <li>・校庭の清掃の「ちょこっとボランティア」をはじめ、学校行事や学習支援のボランティアの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「コミュニティ・スクール」を保護者・地域へ発信</li> <li>・40周年記念行事の実施することにより、地域への発信、及び、PTA・学校・学運協の連携の強化が図れた。</li> <li>②地域人材(ボランティア)の拡充</li> <li>・夏休み体験講座「わくわくサマースクール」の講師に保護者・地域の方を迎え、20講座に延べ500人が超える児童が参加し、新たな体験につながった。</li> <li>・作品展の展示やマラソンの見守り、パソコン授業の支援など、多くのボランティアが来校し、地域と学校を繋ぐことができた。</li> <li>③元八王子地区史跡旧跡マップを作成し、児童・地域に配布し、地域に目を向けるきっかけをつかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「コミュニティ・スクール」を保護者・地域へ発信</li> <li>・式分方小学校ホームページ内の学運協のページを充実させ、保護者や地域の方々へより充実した情報を届けるようにする。</li> <li>②地域人材(ボランティア)の拡充</li> <li>・様々なボランティアがある事をアピールし、より多くの方々から学校を身近に感じてもらう取り組みを行う。</li> </ul>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成26年度指定	由井第三小学校	10回	<p>①学運協のPR活動 ・学校便り、学校ホームページ及び学校説明会等を活用したPR方法について</p> <p>②授業参観等への参観実施並びに児童の学力・体力向上 ・学運協のみの授業参観の実施、校内授業研究への参加計画について ・広くて新しくなった校庭を活用したマラソン週間や大縄跳び大会の実施について ・児童の状況に関する共通理解について ・海洋教育パイオニアスクールプログラムへの協力体制について</p> <p>③夢大地の取組の一層の充実 ・夢大地の取組を充実させるために、完成した副読本の活用方法について ・多摩・武蔵野検定の実施について</p>	<p>①学校ホームページにおける「夢大地の取組」のコーナーを設定し、記事を多くアップし、広報活動に努めた。</p> <p>②学運協委員による授業参観を年2回実施し、日頃の授業の様子を参観した。また、校内授業研究においては授業参観だけでなく、研究協議会にも参加した。広くなった校庭を有効活用し、全校児童によるマラソン週間、大縄跳び大会を継続して実施した。海洋教育パイオニアスクールプログラム実施校として、小中一貫教育の充実を図った。</p> <p>③副読本「ふるさと小比企・片倉夢大地」(教員・保護者用)の活用に着手した。学運協予算を活用し、学級園の近くに雨水タンクを設置することで水やりをしやすいようにして、児童の農業体験の充実を図った。</p>	<p>①学校便り、学校ホームページ及び学校説明会等で広報・啓発活動を充実させることができた。後期学校評価自己評価保護者向けアンケートでは肯定意見が89.7%という結果となり、活動内容を、広く保護者や地域住民に周知することができ、その大切さも浸透し、協力体制も一層高まってきている。</p> <p>②学運協委員による授業参観や研究授業参加を通して、本校児童・教職員の実態を共有し、学運協委員の意見を教職員の研修に生かすことができた。マラソン週間では広くて水はけのいい校庭を有効活用して、週3回を2週間実施し、児童の体力向上を図った。また、本校児童の実態を共有するため、由井学童保育所と連携して対応している児童について、守秘義務のもと、問題行動の家庭の背景や対応策等について協議を行い、児童理解を図った。海洋教育パイオニアスクールプログラムでは、由井中学校と連携して大学教授を招き、高い専門性を生かした授業を4～6年生で実施した。</p> <p>③副読本「ふるさと小比企・片倉夢大地」を活用し、新しく本校に着任した教員でも夢大地の取組を理解し、授業の充実につながるようになった。その結果、例えば4年生では、児童が自ら湯殿川沿いのゴミ拾いをしたり花の苗を植えたりするなど自分たちでも地域の環境を守っていこうと考えることができた。このように児童が自分たちの故郷である小比企・片倉町をより一層理解し、郷土愛が育まれるなど、未来を担う児童の育成が推進されつつある。また、総合的な学習の時間を中心に児童の探究力の伸長につながっている。</p>	<p>①本会予算を有効活用し、本会が学校と協働体であることを確実に周知していく。</p> <p>②教員の異動や地域支援者の動向に左右されない持続可能な取組にしていく。</p> <p>③教師用と合わせ児童用の副読本を活用し、「夢大地」の取組を一層充実したものにしていく。</p>
	横山中学校	11回	<p>①学運協として、学校を支援していくために具体的にどのような取組を行うことができるか。</p> <p>②学校状況の報告を受け、学校が抱えている課題を理解し、学運協として関係機関にどのような働きかけを行うことができるか。</p>	<p>①生徒(生徒会本部役員)との面談・交流</p> <p>②教職員との面談を2回実施(新規採用及び異動転入教職員、主任教諭)</p> <p>③授業参観の実施</p>	<p>①昨年度の展望・課題であった「生徒(生徒会本部役員)との面談・交流」が実現できた。生徒会役員との面談・交流はたいへん意義のある取組となった。実際に生徒が学校生活の中で感じていること、要望を聞くことができ、学運協の今後の活動の指針に繋がった。</p> <p>②教職員との面談や授業参観を実施したことで、教職員と学運協委員がお互いの立場を理解し、協力していくことが最終的には生徒・保護者・地域の期待に応えることの第一歩であることの共通理解が図れた。</p> <p>③授業の様子を知り、感じたことを学校に伝え、学校はその意見を参考にしようとしている。</p>	<p>①平成30年度横山中は3学年14学級で運営しているが来年度より15学級での運営が決定している。10数年前に横山中学校を建て替える時に12学級分での普通教室を基本として建替えを実施している。現状、特別教室を普通学級に変更し利用しており少人数クラスの運営などに支障をきたしている。現在横山中学校は非常に安定しておりさらなる学力及び体力の向上の為に適正な学級数運営を要望し、高度な教育を生徒に提供する基盤を整備していきたい。</p>
	川口中学校	6回	<p>①学運協の認知度を生徒・保護者・地域で上げる工夫について。</p> <p>②学校に学習ボランティアの学生や講師を導入するための取組について。</p> <p>③校内で実施している地域教養講座の活性化について。</p>	<p>①花植えの活動を年間3回実施、体育祭で学運協会長賞の授与</p> <p>②近隣の大学へ学運協支援部のメンバーが向ういて情報の収集を計画。学校側が必要とする講師の招聘を実施</p> <p>③竹クラブ、体操クラブ、囲碁クラブを支援</p>	<p>①花を植えたプランターを校門等に飾り、校内環境の向上につながった。ボランティア生徒と共に花上を行い、学運協に生徒が親しみを持った。</p> <p>②美容師と弁護士を招聘し、講話・実演、講演を実施することでキャリア教育・人権教育の学習が深まった。</p> <p>③竹クラブ、体操クラブの開催は安定した状況にある。</p>	<p>①教員との交流を次年度は予定する見込みである。</p> <p>②学生の導入については、地理的に大きな課題である。今後、工夫内容を協議する。</p> <p>③囲碁クラブについて、近隣の地域団体に広報して活発化を図る予定である。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成27年度指定	緑が丘小学校	11回	<p>①学運協の主催のもと、土曜・放課後の「みどりっ子算数教室」の運営について検討を重ねた。</p> <p>②学校と地域自主防災連合会との連携による、防災マップ作りについて、児童の通学路の安全確保を視野に入れた防災対策協議を行った。</p> <p>③教職員との意見交換会、PTA等の学校組織との連携、学運協の周知について協議・検討を行った。</p>	<p>①参加人数の状況から、本年度は低学年と高学年の2クラスに分け、年間19回の算数教室を開催した。指導者となるボランティアの確保にも努めた。</p> <p>②学校で行った通学路安全点検情報を地域自主防災連合会主導の防災マップ作りに提供し、防災マップに掲載した。</p> <p>③教員の働き方改革について、地域、保護者の理解が深まるように、教員の負担感の分析や、学運協として支援できることを検討した。また、PTA、放課後子ども教室、学運協の連携を図るために、合同連絡会を学期に1回、年3回行った。学運協広報誌「みどりの森」を学期に1回発行した。</p>	<p>①本年度も「みどりっ子算数教室」には、70名を超える応募があり毎回多くの児童が参加している。学カテストにおいても、理解度が着実に上昇している。基礎力の定着に役立っている。</p> <p>②より詳細な情報が記載された地域防災マップを作成が進んでいる。学区域や通学路に関わる防災情報も網羅されている。</p> <p>③学校教職員、PTA、放課後子ども教室、学運協など、学校内の組織が相互に共通理解をもち、連携の深まりを感じた。また、広報誌「みどりの森」により、学運協による活動について保護者への理解が深まっている。</p>	<p>①各学力調査テストにも地道な取り組みの成果が表れており、学力向上の取組として今後もさらに継続して活動を行っていく。参加児童が増加した場合の教育支援ボランティアの確保が課題となる。</p> <p>②地域防災マップづくりは継続して活動を行っていく。32年度実施の学校、地域、消防合同の防災訓練では、起震車を手配するなど、さらに訓練内容を検討した計画を立案していく。</p> <p>③学校内の組織の要となり、緑が丘小学校の児童のために出来ることを考え、支援していく。</p>
	長沼小学校	12回	<p>①子どもの学力の向上について</p> <p>②放課後と土曜日の子供に場所の確保について</p> <p>③地域防災の推進について</p> <p>④地域人材・自然を活用した教育活動について</p>	<p>①学運協が地域・保護者ボランティアを募り、放課後補習おもだか教室と漢字検定を実施した。</p> <p>②一年間を通して、放課後子ども教室の計画的な実施により、放課後の子どもの居場所確保を図った。</p> <p>③地域の町会・自治会と連携して、小学生、中学生、地域住民が一緒に参加する地域避難・防災訓練を実施した。</p> <p>④ゲストティーチャー派遣や田畑の無償借用などを通して、地域人材と自然を活用した授業を実施した。</p>	<p>①放課後補習おもだか教室を年27回の実施により、成績下位層児童の補習を充実させ、基礎学力の向上を図った。今年度で4回目となる漢字検定で、94名の参加児童があった。T全校朝会で表彰も行い、言語能力の向上と意欲付けを図った。</p> <p>②放課後子ども教室では、年60回以上実施・延べ約6,500名の児童の参加があった。子どもの放課後の居場所を確保することができ、校庭・体育館での体を使った遊びを推進することで体力の向上の成果も上がった。合わせて、低学年保護者開催時の子どもの居場所提供にもなり、学校運営の一助となった。</p> <p>③地域避難訓練・防災訓練参加者が352人であった。自然災害における不測の事態に備えのある学校・地域作り、防災に対する意識の高まりがあった。</p> <p>④学校近隣の田畑を無償借用させてもらい、植え付け・収穫等の体験学習を行った。</p>	<p>①子どもの学力向上のため、引き続き放課後補習おもだか教室を充実させていく。もう少し、参加人数を増やす工夫が必要となる。漢字検定については、今後も継続し、子どもたちの意欲関心を高めていく。</p> <p>②高学年児童の放課後の居場所を確保するためにも、放課後子ども教室の拡大を図っていく。</p> <p>③イベントとしての地域防災から、実際の有事に対して、どのように行動し、避難所の開設を含めた、実際の地域住民の動きを検証することが必要である。</p> <p>④野菜を自分の手で育てる経験をさせるため、学校で新設される学校畑に地域の農業経験者が指導・支援する体制を構築する。</p>
	由木西小学校	11回	<p>①地域運営学校としてのよさを生かした学校づくり・学運協全体として取り組むことと、各委員が分担して取り組むことのダブルスタンダードで豊かな活動を行ってきた。組織の分掌として、「全体会」「学力向上支援部」「自然体験活動支援部」「情報宣伝活動部」「郷土愛・地域支援部」「健康安全支援部」に分けて活動を行い、毎月の協議会にて報告及び協議を行った。</p> <p>②地域と連携した教育の推進</p> <p>平成29・30年度八王子市研究指定校発表会への支援として、3分科会の中の「きらきら健やか分科会」では学校と地域が連携した取組を行った。</p>	<p>①学運協自然体験活動支援部の協力を得て、緑の少年団は、11月18日に全国育樹祭に参加し、その報告を八王子市長表敬訪問として11月22日に行った。</p> <p>・保護者アンケートの結果、地域運営学校としての特色については89%、地域と連携した教育については94%の肯定的評価との報告があった。</p> <p>②12月5日の研究指定校発表会を「由木西の日」とし、学運協会長の農園の野菜を使った「由木西彩弁当」を35食給食時間に提供したり、学運協委員と酪農家とのつながりから、牛の乳搾り体験を行ったりすることができた。</p> <p>・学運協委員が所属する、地域のグランドゴルフサークルの方々にゲストティーチャーとして招き、子どもたちとの交流活動を行い、研究発表会で、「きらきら健やか分科会」の事例として、児童の自尊感情を高める活動として発表することができた。</p>	<p>①緑の少年団代表児童が全国育樹祭に参加し、代表の児童が皇太子殿下及び同妃殿下とお言葉を交わすことができたこと、また、八王子市長や教育長の前で報告したことは、由木西小の全関係者の心に一生残るかけがえのない機会となった。</p> <p>②研究指定校発表は、保護者や学校関係者だけでなく、多くの地域の方々が来校し、本校の教育に対する理解と協力を得ることができた。これらは学運協の力によるところが大きい。</p> <p>・地域との連携が強化され、町会との絆が深まり、行事の共同開催の計画が進行することになった。</p>	<p>①学校の経営計画を基に、学運協ではそれぞれの分野での研究をさらに深め、地域運営学校として特色ある教育を推進する。</p> <p>②地域との共同開催行事として、町会の集会所で、地域住民と学校が行うふれあい合唱団構想を具現化する。</p>
	高尾山学園	9回	<p>①本校の特色ある教育活動について、年間を通じて協議を行いあるべき姿の方向性を検討した。</p> <p>②保護者力向上のための諸施策の検討と学校サポート本部に関して提案、協議、検討した。</p> <p>③学運協委員と全教職員との面談を実施し本校教員の状況を把握し今後のあり方について検討した。</p>	<p>①学校サポート本部を運営し、保護者、保護者OB、団地住民、他地区住民の参加する体制をつくり活動を行った。</p> <p>②保護者力向上のため、各種ボランティア活動を企画し運営した。</p> <p>③企画事業を行い特色ある活動を支援した。</p> <p>④学運協委員と保護者との話す会を企画し実施した。</p>	<p>①学運協委員全員が本校の特性や教員の状況を把握し次年度へ向けた提案や協議を行い、教育課程届や学校経営計画に反映出来た。</p> <p>②学校サポート本部を運営し保護者力の向上および団地住民らとの交流の機会が増えた。</p> <p>③学運協委員と保護者との話す会を実施し相互理解を高めることが出来た。</p>	<p>①次年度は学運協委員が2名が入れ替わるが、更なる学校経営向上のため引き続き不登校特例校としてのあるべき姿を検討する。</p> <p>②団地自治会と連携し、サポートと本部を中核にした保護者力向上や団地住民との交流のための諸活動の充実。</p> <p>③八王子に関する学習活動への支援及び企画事業の検討推進</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成27年度指定	9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①運営目標や活動内容、学校の状況の報告</li> <li>②活動予定の確認</li> <li>③地域との連携、地域人材の活用</li> <li>④情報交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校の状況の報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の報告に加え、7月には生活指導主任から1学期の生徒の様子について報告した。11月には、学年主任から各学年の生徒の活動を報告した。また、学校予算の状況について説明した。</li> </ul> </li> <li>②地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃への協力を行った。また、朝学習の実施については、生徒の質問に答える等の学習の補助について、地域人材を活用し、そのコーディネートを行った。</li> </ul> </li> <li>③その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月と11月の数学検定を学運協主催で実施した。計28人が受検した。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校の状況について、教員から直接報告した点については好評であった。また、予算の状況についての説明も興味深く聞いていただいた。</li> <li>②年2回(7月は中止)の地域清掃には合計で、1,141名の参加があった。また朝学習の補助にも毎回、地域の学生ボランティアが来てサポートをしていただいた。学運協委員がそのコーディネートを行った。</li> <li>③数学検定は問題なく実施できた。漢字検定と英語検定も学運協との連携で実施する予定だったが実現しなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①今年度の取組や活動は継続し、一層充実した内容で次年度も取り組む。</li> <li>②次年度に新たに取り組む内容として、以下の3つを予定している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校支援教室(仮称)として、不登校傾向の生徒が別室登校した際の学習支援や話し相手に、地域人材を活用する。その運営や調整をサポートする。</li> <li>・英検、漢検を実施する際の地域人材のコーディネートをサポートする。</li> <li>・これまでの朝学習は1学年の生徒だけを対象としていたが、それを2学年の生徒にも拡大する。</li> </ul> </li> </ul>
第四小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学力向上部会(放課後子ども教室含む) <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室においての「放課後算数教室」・「ワクワク体験教室」の企画</li> <li>・「夏休みパワーアップ教室」・「漢字検定」の企画・準備等</li> </ul> </li> <li>②地域連携部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月実施の「地域総合防災訓練」の企画・準備等</li> </ul> </li> <li>③環境美化部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間3回実施の「花の苗植え活動」の企画・準備等</li> <li>・年間3回実施の「学校環境美化活動」の企画・準備等</li> </ul> </li> <li>④広報部会 年1回発行の広報誌「地域運営学校だより」について企画・準備等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学力向上部会(放課後子ども教室含む) <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後算数教室を月に2回(水曜日)に実施</li> <li>・ワクワク体験教室では、ドローン体験やプログラミング、英語、ポッチャなどを行った。</li> <li>・夏休みパワーアップ教室は7月の最終週に五日間実施した。</li> </ul> </li> <li>②地域連携部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字検定も1月に予定通り実施した。</li> </ul> </li> <li>③環境美化部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、保護者、児童と共に四月末に総合防災訓練を実施した。</li> </ul> </li> <li>④広報部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・花の苗植えを学期毎に年3回実施した。また、芝生の雑草抜きに地域・保護者が大勢参加した。</li> </ul> </li> <li>④広報部会 予定通り広報誌を発行した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学力向上部会(放課後子ども教室含む) <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員、子供が喜んで参加した。</li> <li>・大学生、中等学校生、第五中学校生から学んだので、親しみをもって学習できた。</li> </ul> </li> <li>②地域連携部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大勢の保護者、地域の方が参加し、防災の意識を高めることができた。</li> </ul> </li> <li>③環境美化部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・花の苗を植えたことによって、地域の方から、環境がよくなったという喜びの声を聞いた。</li> <li>・芝生に対する愛着や親しみが出てきた。</li> </ul> </li> <li>④広報部会 学運協の活動内容を保護者・地域に広めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学力向上部会(放課後子ども教室含む) <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生の試験日と重なる時期なので、第五中学校と連携していく必要がある。</li> <li>・放課後算数教室は、高学年からでは基礎学力の定着が難しいので、中学年からの参加にする。</li> </ul> </li> <li>②地域連携部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練は定着してきた。今後は、地域と共助できるように普段から連携していく必要がある。</li> </ul> </li> <li>③環境美化部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・花の苗の確保が確実にできるようにすること。環境美化活動の日常化を図ること。</li> </ul> </li> <li>④広報部会 定期的な発行と内容の充実。</li> </ul>
平成28年度指定	9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校運営について</li> <li>②学校評価7月、12月の検討・分析</li> <li>③夏期講座、持久走大会の計画、仕事分担</li> <li>④31年度教育課程の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①夏期講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域人材を活用し、7講座を開催することができた。学運協委員に各講座の担当を担ってもらい組織的に運営できた。また、二中の陸上部にも講座を開いてもらった。</li> </ul> </li> <li>②持久走大会 <ul style="list-style-type: none"> <li>今年3回目の持久走大会は晴天の下、学運協、PTA、教員が協力して行えた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学運協及び地域運営学校の理解促進により、一層地域からの協力体制が強化された。</li> <li>②今年で3回目を迎える持久走大会をより円滑な運営ができたことにより、地域に密着した行事となった。さらに学校理解や協力体制が促進されることが期待できる。</li> <li>③地域や隣接中学校からの協力を得ることにより、行事そのものの定着化を促進した。小中連携の観点から、一層緊密な連携を図ることができるよう推進する。</li> <li>④学運協担当教員が毎回学運協便りを発行し、保護者・地域への周知に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①来年度は学校評価により主体的にかかわってもらい、学校運営の実際を理解してもらう。</li> <li>②特色ある取り組みにおいても、学運協中心に企画運営を行いたい。</li> </ul>
中野北小学校	5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成30年度の教育課程・学校経営方針に基づく教育活動の進捗状況の報告について</li> <li>②学校評価について</li> <li>③平成31年度教育課程について</li> <li>④学校運営協議会企画事業について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①夏休みに実施する補習「中北サマースクール」への地域ボランティアの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎回、校長による学校経営の報告により、学校の様子を理解することができた。</li> <li>②「中北サマースクール」に学校運営協議会企画事業として謝金を確保したことにより、地域の学習ボランティアを活用して、全学年児童に補習を実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習面のサポート体制を維持していく必要があり、来年度以降も学校運営協議会企画事業として、「中北サマースクール」に学習ボランティアを派遣していく。</li> <li>②今年度試行した、清水小学校学運協と共催の漢字検定を来年度以降も継続できるよう、清水小学校学運協と協議していく。</li> </ul>
小宮小学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校の教育活動について <ul style="list-style-type: none"> <li>・セーフティー教室</li> <li>・学校説明会</li> <li>・運動会及び音楽会</li> <li>・学校の取組</li> <li>・給食</li> <li>・委員会活動</li> <li>・道徳授業地区公開講座 など</li> </ul> </li> <li>②校舎等の使用状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・プール及びトイレの設備について</li> </ul> </li> <li>③漢字検定について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①様々な機会を通して学校の教育活動の実際の様子を見ていただいたことで、理解を深めていただくことができた。また、話し合いに参加していただいたことで、教職員との関係を深めることもできた。</li> <li>②プール及びトイレの設備を見て、修理等の要望を行った。</li> <li>③漢字検定の申込み活動から結果を知らせる活動を主体となって行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①1学期にセーフティー教室を参観していただき、意見交換会にも参加していただき、地域の状況を説明していただく機会となった。また、2学期に、道徳授業地区公開講座の授業を参観後、グループ 討論会に参加していただいた。</li> <li>②トイレ改修が実現し、本校の保護者から感謝の言葉が届いた。</li> <li>③本校児童、近隣中学生及び地域の方々合計216名が参加し、PTA等の15名のボランティアに協力を得ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成31年度の活動をさらに充実させるために、各委員の役割分担を明確にした。3年間で培ったノウハウと新しい試みを平成31年度に実施するための計画を立て活動していく。</li> </ul>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成28年度指定	散田小学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成30年度の学校経営方針の承認について</li> <li>②学力向上のための読書活動推進について</li> <li>③横山地区(横山中学校、横山第二小学校、散田小学校)の共通した生活スタンダード、学習スタンダードの定着と、安全・安心の学校づくりのため具体的な取り組みについて</li> <li>④配慮の必要な児童への支援と対応について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校コーディネーターと連携した図書ボランティア・読み聞かせボランティア活動の充実</li> <li>②各教科等における言語活動への支援(学運協企画事業)</li> <li>③教室環境、学校施設等の点検</li> <li>④ケーススタディによる、家庭を含めた配慮の必要な児童への具体的な対応策の検討と実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①全国学力調査、都学力調査、市学力定着度調査における質問紙の結果、児童の読書量は増加傾向にある。また、各教科等における学校図書館の活用が進んだ。</li> <li>②支援が必要な児童への対応において、学運協委員との情報共有・助言等から、地域や関係諸機関との連携がスムーズに進むケースが増えた。</li> <li>③環境の調整、教員の意識の向上により、児童の危険な行動が抑制され、散田スタンダードの定着が進んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①読書量の多い児童と少ない児童の差が大きく、学力の高低とある程度対応している。学力の低い児童へのさらなる対応が課題である。</li> <li>②家庭の状況が学校生活の不適應の要因となっているケースが多い。今後、学運協が核となり、地域との連携をより強化して対応していくことが課題である。</li> <li>③散田スタンダードの定着については、学年による差が大きかった。環境の調整、適時の指導を継続し、学運協として児童の状況を見取っていく必要がある。</li> </ul>
	山田小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①日常的な授業改善と家庭学習の充実を図るための家庭との連携などにより、児童の学力向上や体力・運動能力の向上にどのように反映するのか、協議を行った。</li> <li>②「人権の花」運動実施校として「笑顔あふれる花の学校」を合言葉にし、児童の心を豊かにするための花を育てる活動の充実について、協議を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各学運協委員が学校公開日等で授業参観することで、学習の様子について意見を述べる事ができた。体育科の研究授業にも参加することで、教員の授業改善の状況を把握することができた。</li> <li>②花を育てる活動はとても具体的であり、多くの人々に分かち伝えられるものであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学力向上と体力・運動能力の向上へ向けての学校の取組について、各学運協委員と情報と認識を共有することができた。</li> <li>②5年生を中心に花を育てる活動を通して、人に優しい、豊かな心を醸成することができた。PTAも運動して活動し、「山田小フラワーロード」を花で美しく飾ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校の取組状況について、情報を共有したり共通理解を図ったりすることができた。家庭学習の充実のための家庭との連携や学力向上との繋がりなどについては、話し合いを深めたり検証を進めたりといったことが十分にはなされなかった。</li> <li>②花を育てる活動を通して豊かな心を育てることは、概ね達成できた。今後は学校の教育環境の整備まで範囲を広げ、未だ手つかずの場所の改善を図っていく。</li> </ul>
平成29年度設置	第一小学校	9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学運協の運営・経営計画・重点目標等について</li> <li>②学校評価アンケート調査項目(保護者、児童、地域)の検討</li> <li>③幼保小・小中の連携について</li> <li>④教員募集にあたっての文言について</li> <li>⑤学校の授業・行事を参観して感想並びに学校の教育活動に関して</li> <li>⑥学校評価アンケートの結果を受けて、今後の運営面での継続・改善点について</li> <li>⑦次年度の指導体制について</li> <li>⑧次年度の教育基本方針・委員について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①研究してきた道徳教育に力を入れ、学校での教育だけでなく、家庭、地域が一体となって指導できるよう情報提供を行った。</li> <li>②6年生のキッズショップの開催や駅前通りの花植えの実施</li> <li>③花と緑の街づくりフェア、みずき通りフェスティバルへの参加</li> <li>④合唱団による、地域イベントへの参加</li> <li>⑤地域と連携した防災訓練</li> <li>⑥放課後子ども教室の推進</li> <li>⑦漢字検定の実施</li> <li>⑧保護者間のトラブルへの助言等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①道徳の教育化に向けて、自校だけでなく他校に対しても手本となる発表を実施できた。</li> <li>②今年度のキッズショップは、地域との連携をより感じられる貴重な体験となった。また、花植えは多数の通行人から暖かい言葉を多数かけられることで、感謝の気持ちを直接感じる事ができている。</li> <li>③行事への参加は、地域や商店街と一緒に活動することで地域で育てていることを体感できている。</li> <li>④学校を使用しての地域総合防災訓練の綿密な計画を練り、避難場所として地域の再認識を行うことができた(実施日は平成31年6月8日(土)に予定)</li> <li>⑤放課後子ども教室にて、学習支援、スポーツ支援等を実施し、地域ボランティアと積極的に関わることができ人材発掘へとつながられた。</li> <li>⑥漢字検定試験を年間2回実施し、126名の参加があった</li> <li>⑦児童のトラブルが発端となった保護者同士のトラブルに助言をすることで、解決への糸口を見いだすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域運営学校として、より一層保護者や地域の方々の意見を学校運営に反映させたい。</li> <li>②放課後子ども教室等を活用して、学力・体力アップへとつなげていきたい。</li> <li>③青少対主催のウォークラリーやクリーンキャンペーン等の地域行事へ教職員の参加率の向上を図る。</li> <li>④防災訓練の対象が、一部町会であったので全学区域を対象として実施していきたい。</li> <li>⑤ボランティアが限られているため、一部の方に負担が大きいかかっている。広報誌等を発行し、新規のボランティアを獲得していきたい。</li> <li>⑥幼保小、小中の連携を今まで以上に図り、スムーズな進学につながる体系を構築したい。</li> </ul>
	いずみの森小中学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①義務教育学校開校へ向けて、地域とともにある学校づくりをさらに推進していく上での議題や今後の取組について</li> <li>②学運協の役割、活動内容について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①義務教育学校に向けた教育課程編成及び学校複合施設としての活動の企画・調整・運営について</li> <li>②横浜市立東山田中学校ブロック地域学校協働本部(やまたらう本部)視察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①標準服導入についてのアンケートを実施し、協議の結果、標準服は7学年から導入することを決定した。</li> <li>②学校、町会、青少対、PTA、放課後子ども教室、サタデースクール等、それぞれの活動・取組を一覧できるコミュニティ・カレンダー作成に向けて計画をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域と協働・連携した教育活動・取組として、学習支援・防災訓練を実施した。</li> <li>②コミュニティスペースの運用、活用については今後も協議を継続していく。</li> <li>③教員の参加、広報活動の充実を図っていく。</li> </ul>
	大和田小学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①保護者・地域の協力を得ることで、より安定化した学校運営の実現を図るため、学校や学運協の取組みの情報発信等について協議を行った。</li> <li>②児童アンケートや学力調査の結果をもとに本校の特徴を分析し、本校児童にとって身に付けるべき具体的な力を明確にし、その実現に向けて学校運営の在り方について協議を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校運営協議会通信を発行し、情報発信を行っている。</li> <li>②おやじの会と協力し、学校の体育館を使用した防災宿泊訓練を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学運協や地域運営学校としての認識が広がってきた。</li> <li>②避難所疑似体験を通じて、避難所の運営方法を見直すことができた。</li> <li>③地域人材を活用し、大和田地区の「昔の話」の語りを行ったり、大正琴の体験学習を定期的に行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学運協に対する地域や保護者の理解が得られるようになり、地域の学校として教育活動を行うことができた。</li> </ul>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	横山第二小学校	8回	<p>①保護者・地域等の思いや願いを教育活動に反映させるための意見集約を実施・分析、今後の教育活動に反映</p> <p>②学校運営協議会の活動・取組等を広く紹介・周知</p> <p>③地域連携を重視した具体的な活動・取組</p>	<p>①課題把握・迅速対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本校の教育の強みや本校が抱える教育課題、保護者・地域のニーズ等を把握するため、保護者・地域を対象とした学校評価アンケート調査を年2回実施。また、運動会・学習発表会、学校公開・学校説明会、授業参観等は毎回アンケートを実施し、課題把握、情報共有、迅速な対応を行った。</li> </ul> <p>②学校運営協議会の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学運協制度の趣旨、活動内容の周知を目的とした広報活動として、学校だより、ホームページ、地域運営学校だより等にて活動の様子を紹介。</li> <li>いじめ防止の取組として、学運協主催の「道徳授業地区公開講座 講演会」開催。東京都多摩教育事務所指導主事による「子供たちの豊かな心を育むために」の講演会実施。</li> </ul> <p>③地域防災会議への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難所用備品・災害時特設公衆電話確認。緊急応援職員(市)・防災課・消防署員等と地域住民・近隣幼稚園、保育園責任者との顔合わせ等を行った。</li> </ul>	<p>①積極的な広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校の考え、今後の取組等について積極的の回答。保護者のニーズ、地域住民の思いや願いを教育活動に迅速に反映。</li> <li>平成29年度から実施している学校評価アンケート(地域)について、地域回収率(44%→52%→54%→60%)が毎回上昇。学校への関心が高く、積極的の情報発信・地域行事等への参加が増えることで、学校への信頼が高くなっている。地道な活動が評価されているものである。</li> </ul> <p>②学運協の活動紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学運協の役割や活動内容紹介。学校だよりにより、学運協の協議内容を掲載。ホームページに「学校運営協議会」のバナー設置。「地域運営学校だより」を毎月発行。保護者・地域からの高評価を得ている。</li> <li>東京都多摩教育事務所指導主事による「子供たちの豊かな心を育むために」の講演会実施。保護者、地域、教職員等が参加。家庭力、地域力の大切さを再確認。</li> </ul> <p>③避難所開設に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災倉庫内から「避難所用備品」「災害時特設公衆電話」を体育館舞台下で管理。緊急応援職員(市)等と地域住民が顔合わせ。「互いの顔が見える」「安心感・信頼感」の醸成。</li> </ul>	<p>①開かれた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々がいつでも利用できる「地域の方からの情報掲示板」設置(本校舎1階廊下。校長室前)。地域の方が写真や地域の花々、地層等を展示。</li> </ul> <p>②積極的な情報提供・情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりは「A3B版で2枚(8ページ)」作成。教育活動の様子を詳細に紹介。ホームページは毎日、更新。今後も継続。</li> </ul> <p>③地域連携の深まり・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災会議を毎年、開催。町会長、自治会長、消防署員、近隣幼稚園長・保育園長、市職員、学校関係者等、互いの顔、名前を知り合う。発災時の対応がスムーズ。今後も継続。</li> <li>地域行事等への積極的参加</li> <li>夏祭り(6か所)へ、教職員が率先して参加。一人が2回以上参加。今後も継続。</li> </ul>
	元八王子小学校	10回	<p>①学校経営方針の「きれいな学校」実現を目指し、学運協と学校が連携した取組を協議。青少対との連携等、様々な意見が出された。</p> <p>②「学校支援」とテーマとして、家庭や地域との協働・支援をどのように計画・提案し、意識付けていくか検討した。</p> <p>③地域の支援者・人材を発掘するための取組を検討した。</p>	<p>①緑化活動の方々と環境委員会が連携し、様々な花を植え、環境の美化を図った。</p> <p>②③学習支援の方々によるベーシックドリルの丸付け活動。学習支援ボランティアの方々による全教科の学習支援活動・清掃ボランティアなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はちっこボランティアによる「校内見守りボランティア」の活動。</li> <li>地域から支援ボランティアのための講師を呼びかけ、研修会を行った。</li> </ul>	<p>①緑化活動の方々の支援により、校内美化の大切さについて児童の意識を高めることができた。また、学運協の方々と児童の協働作業により、地域とのかかわりについて児童が考えを深めることができた。</p> <p>②学習支援者を昨年に引き続き募集し、地域・保護者の方々が、児童や学校に対してさらに関心をもってくださるようになるとともに支援者も増加した。</p> <p>③支援ボランティアの方々の児童に対する支援や対応の仕方がより向上してきた。</p>	<p>①ダン小学校との交流活動や学芸会など、元八王子小学校の行事と関連した取組を検討・実現する。</p> <p>②学習支援の形式や学習支援者をさらに拡大し、地域に根差した元八王子小学校として発展を目指す。</p> <p>③学運協の活動を充実させていく仕組みを検討する。</p>
	元八王子東小学校	12回	<p>①基礎・基本の定着と学習習慣の確立を一層行う。</p> <p>②言葉の基礎となる漢字の習得を一層行う。</p> <p>③学校の学習及び生活環境の向上を継続的に行う。</p>	<p>①放課後補習教室「東小スタディ」を開設し、3年生以上の自ら学習を行うことを希望する児童に対して、学習の場を設けた。</p> <p>②漢字検定を夏と冬の2回実施した。</p> <p>③図書室の環境整備を年間10回程度と学校花壇の整備を季節ごとに年間8回程度ボランティアにより行った。</p>	<p>①自ら学習しようとする意欲の向上と学習習慣の向上につながった。</p> <p>②延べ130人の児童が検定を受検し、意欲の向上及び漢字の習得につながった。</p> <p>③子どもたちの読書への関心が高まり、読書を進んで行う児童が増えてきている。</p>	<p>①取組や習熟には個人差があるため、更に教材を充実させ、一人一人の学びに応じた学習を行っていく。</p> <p>②さらに、上位の級へチャレンジをする意欲を高め、習得の向上を図る。</p> <p>③ボランティアとして関わっていただく方を増やしていく。</p>
	上巻分方小学校	11回	<p>①子どもの学力向上の協議・推進</p> <p>②地域への周知・ボランティアへの協力体制への協議</p> <p>③運営目標や、活動内容協議、学校への状況報告</p>	<p>①学校の教育目標を踏まえて、基礎学力の向上を目標とした放課後学習教室の運営と、本校を会場としての漢字検定を実施した。</p> <p>②年度初めに各町会長へ学運協立ち上げのあいさつに回り、上巻分方小学校のアピールと、地域ボランティアの依頼、町会理事会への参加依頼をした。</p> <p>③校長・副校長から子供や学校の様子の報告を行い協力体制を構築する。</p>	<p>①参加率が昨年に比べてさらに高まり、学習取組の意欲向上が確認できた。漢字検定についても昨年の倍以上の人数が受験し、参加意欲は高まってきている。</p> <p>②校長、副校長、学運協会長、PTA会長の4名で、各町会長に挨拶ができ、町会を入口としたボランティアや地域へのアピールができた。</p> <p>③本校の現状や抱えている問題を伝え、それに対する学校の教育方針を明確に示したことにより、地域社会との協力体制を強化できた。</p>	<p>①放課後学習教室における学習規律が定着できなかったことと、予算配分上の問題のため、この取り組みは1学期のみで中断された。人材確保に力を入れつつ、学習規律を確立し、放課後学習教室「かみっこ」の目標を達成できるよう工夫していく。漢字検定は、引き続き実施の方向で進め、学力向上のための「かみっこ」も定着させていきたい。</p> <p>②今後とも引き続き地域の方を巻き込んで、学校へかかわっていただくために協議する。また、学校コーディネーターや支援者の確保と人材配置の協議をしていく。</p>



	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	城山小学校	7回	<p>①小中9年間を見据えた教育環境を構築するため中学校と連携した学運協を運営する。(小4回、小中合同3回協議会を開催する)</p> <p>②地域住民が学校行事に積極的に参加できるようPR活動を推進する。</p> <p>③担任や校長・副校長が過大なクレームを持ち込む保護者ならびに問題行動児童の対応に苦慮している場合は校長と連携しながら保護者と接触し充分傾聴した上で納得できる解決策を提案する。</p> <p>④新任の先生や児童に地域の歴史や特色を知ってもらうため「元八王子地区史跡・旧跡マップ」を作成し先生と全児童(保護者家庭)に配布する。</p> <p>⑤学校環境の美化・整備を推進する。</p> <p>⑥子ども食堂の運営を支援する。</p>	<p>①中学校とつながった学運協として、小中学校を見る委員5人と小学校のみの委員5人がおり、学期1回の小中合同協議会を開催し課題や情報を共有しながら9年間を見据え、地域が学校を支えていく取組を進める。</p> <p>②学校公開行事・サタデースクールなどの対応</p> <p>・運動会や学習発表会、学校公開の授業など、地域の協力を得て学運協でもチラシを町会・自治会に配布し、地域の方の参加を呼びかける。</p> <p>・年に8回計画している土曜開催のサタデースクールを、PTAと連携しつつ地域の協力を得て、ホテル観賞や防災訓練など学運協の組織活動として進める。</p> <p>・学運協では地域から募金を募り花鉢を購入し、卒業式で式場に飾って雰囲気盛り上げる。この花鉢は中学校の卒業式、吹奏楽コンサート、小中学校の入学式にも活用する。</p> <p>③校長、副校長、担任と情報を共有し連携しながら必要に応じて保護者・児童と対応する。</p> <p>④地域の史跡・旧跡の写真を撮影し地図に貼り付けて分かりやすいマップを作成する。</p> <p>⑤学校田を整備しお田植えや稲刈りの体験ができるよう地域の農家から苗を調達する。</p> <p>⑥地域の「子ども食堂」を町会・地域住民と連携し月1回開催できるよう積極的に支援する。</p>	<p>①学運協を7回開催し小学校と中学校のそれぞれの課題や情報を共有することができた。</p> <p>②学校行事のチラシを地域に配布するタイミングを早めにしたリロコミによるPRもしたため昨年度より多くの住民が参加した。</p> <p>③担任、生活指導主任、校長、副校長が情報を共有し連携して児童・保護者と対応した結果、連絡が取れない不登校児童はいなかったが協議会として保護者の相談に1件対応した。</p> <p>④「元八王子地区史跡・旧跡マップ」を作成し寄付で集めた資金で印刷し小・中学校の全児童・生徒ならびに地域の町会にも配布した。</p> <p>⑤校内の環境整備ということで、学校田の除草・収穫作業や花壇の整備などPTAや老人会、地域と連携した取り組みが推進され円滑な支援ができた。</p> <p>⑥子ども食堂の参加者は月平均88人と予想以上に盛況であった。</p>	<p>①中学校の学運協と積極的に意見を交換し連携を深め相互の協力体制を構築する。また、学運協委員の世代交代を進める。</p> <p>②学校行事のチラシの配布時期を余裕をもって開催日の1か月前に配布するがロコミによるPRを積極的に行う。</p> <p>③学校側と連携しながら保護者会に学運協委員も出席し顔を知ってもらった上で保護者のクレームにも対応できることをPRする。</p> <p>④今後、石造物や天然記念物のマップを作成しホームページにも掲載する。</p> <p>⑤学校田や花壇の整備を継続して実施する。</p> <p>⑥子ども食堂の運営スタッフが一部の人に固定化しているので新スタッフを増強する。</p>
	横川小学校	11回	<p>①学習支援の在り方</p> <p>②地域や保護者の連携の在り方</p> <p>③地域防災体制の組織の在り方</p> <p>④広報活動</p>	<p>①PTAと連携した漢字検定、英語検定の実施</p> <p>②PTAと連携した3年生学習教室(夏季及び放課後)の実施</p> <p>③学校支援における地域人材の活用</p> <p>④教員との連絡協議会の実施(1学期)</p> <p>⑤地域運営学校便りの発行(年間8回)</p>	<p>①漢字検定(年間3回実施)108名受験、英語検定(年間3回実施)39名受験</p> <p>②夏季学習教室(7日間)国語・数学・英語・理科4教科28コマ開催・10名参加。</p> <p>・放課後学習教室(11月～2月)国語・数学・英語・理科 9名参加</p> <p>③キャリア教育、学習支援における、地域人材の活用、PTAとの連携、協力体制の確立。</p> <p>④教員の学校運営協議会への理解が深まり、新たな学校支援の体制が生まれた。</p>	<p>①漢字検定、英語検定、3年生学習教室の実施の継続。</p> <p>②進路指導部と連携しながら地域人材の活用も継続。</p> <p>③地域防災の促進が十分ではないので、地域との連携の在り方を考えていく。</p> <p>・少しづつではあるが、教職員の学校運営協議会に対する理解がなされてきており、連携できるようになってきている。今後は地域の諸団体との連携の促進をしていくこと、「持続可能な活動」という視点に立って何を誰とどのように連携していくかが課題である。</p>
	恩方第一小学校	11回	<p>①学校の学力向上施策とボランティア募集の方法について協議した。</p> <p>②放課後子ども教室の開催について、運営主体をどの団体に依頼できるか、放課後子ども教室が開催されるようになったときに、学運協としてどのように関わっていくか協議を行った。</p>	<p>①学運協会長が、学校コーディネーターとなり、学校と地域をつなぐ橋渡しを行う。</p> <p>・学運協として、学習ボランティアの募集を行った。</p> <p>②学童保育所の委託引受先を募集した。</p>	<p>①学校と地域の関係が深まった。学校では、地域教材の開発、地域人材の積極的な活用につながった。学習ボランティアには地域の方が多数登録、活動している。</p> <p>・学力向上の手立てとして、地域の方のボランティアをお願いしたことにより、地域の方と児童との距離感が縮まり、日頃学校外で出会ったときもあいさつができるようになってきた。地域の方の声かけにより、児童の学習意欲が高まった。</p> <p>②学童保育所を運営する恩方キッズが業務委託先となり放課後子ども教室を開催できる運びとなった。</p>	<p>①引き続きボランティア募集を行っていく。</p> <p>②来年度は、放課後子ども教室が始まるため、放課後子ども教室での学習教室の開催なども視野に入れ、よりボランティアの活動範囲を広げていきたい。</p> <p>・学校の学力向上の取り組みは、始まったばかりであるため、引き続き、学校と協働して進めていく。</p> <p>・学運協の活動を保護者をはじめ、より多くの方に知ってもらえるよう広報活動を行っていく。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	恩方第二小学校	11回	<p>①学運協の平成30年度運営目標及び予算執行計画書の承認・決定</p> <p>②学校農園(畑作体験)について</p> <p>③学校評価について</p> <p>④地域連携について</p>	<p>②1・2年の生活科、3・4年の総合的な学習の時間で行われる飯ごう炊さんに使用する材料を児童自らの手で育てていく。それを実施する学年は4年生であり、畑は会長の畑をお借りする。育てる野菜は、ジャガイモ・ニンジン・トウモロコシ・枝豆とする。4年生の野菜作りは、授業時間の関係で全作業を体験するというには不十分だったが、ジャガイモは飯ごう炊さんで使用する分の収穫ができ、枝豆・スイカ・トウモロコシなど収穫の喜びを味わうことができた。</p> <p>③前期学校評価の結果、1年生のバスの乗り方が悪く、指導する6年生が精神的に追い詰められているという意見が寄せられた。学校の生活指導の組織的対応を強化し、該当保護者と綿密に話し合いをもつ。保護者に不安から学校にいらだちをもっている面が見られる。保護者同士話し合いの場をもってはどうかとの意見が出された。後期学校評価では、ほとんどの項目で肯定的評価の割合が向上した。バスの乗車態度も大幅に改善できた。キャリア教育が分からないという意見に今後改善を望む。</p> <p>④ゆうゆうはつちょう会の取り組みが進まず、地元から盆踊りなら体操教室につながる介護予防になるのではないかという意見が出て、学校コーディネーターも働きかけ盆踊り会を10月から実施している。子どもも多数参加しにぎやかにやっている。今後地域の夏祭りを創設し、児童・教職員が参加していくため、学運協主催とする。</p> <p>・今年度は地域防災訓練の実施年であり、雨天ではあったが、予定通り実施できた。児童・教職員80名、地元住民77名、関係諸機関25名が体育館で真剣に訓練した。</p>	<p>②昨年度の学運協委員と教員との意見交換会で出された農作業への悩みを解消するため、年度当初から委員に働きかけ、今年度の学運協での話し合いをもとに、児童の農業体験に委員の協力が得られた。児童は収穫の喜びを味わうことができた。農作業だけでなく、学習支援にも委員の協力が得られ、落ち着いた学習環境が確保できた。</p> <p>③保護者同士の話し合いを進行するため、「星とおひさまフィーカキャラバン」を招へいし、子育ての悩みを中心に話し合いをもった。保護者に好評であった。</p> <p>④本校の学運協委員は地元の主要な人材が集まっており、合同地域防災訓練では悪天候にもかかわらず、地元住民の参加者が大変多かった。保護者・教職員も地域の防災に対する熱意に頼もしさを覚えている。</p>	<p>①次年度は3年目となり、学運協委員の交代も考えられる。2年間の成果がしっかりと次年度に受け継がれるよう引継ぎを十分にしておく。</p> <p>②地域の方を講師とするヤマメの里親教室・学区見学・恩方漁協見学・間伐体験・炭焼き体験などは次年度も実施する。児童の農業体験は、熱中症対策から校地内の畑で行うこととする。引き続き指導は学運協委員の方をお願いする。</p> <p>③地域行事創設の「上恩方夏祭り」を推進することが大きな活動となる。上恩方は醍醐・森久保の町会は限界集落に近く、案下・川井野・カ石等も小学生は6人しかいない。地元を活性化できるのはまさに今と学運協・PTA・教職員心を一つに町おこしの行事に立ち向かっていきたい。</p>
	元木小学校	10回	<p>①学校の抱える課題について</p> <p>②恩方東学童保育所の移設について</p> <p>③元木小放課後子ども教室について</p> <p>④通学路について</p> <p>⑤NPO法人「小津倶楽部」との連携による3年生児童の林業体験学習について</p> <p>⑥小津バスについて</p> <p>⑦平成30年度学校関係者評価(保護者)について</p>	<p>①学校の抱える課題に対する意見交換</p> <p>②恩方東学童保育所の移設について、市役所関係部局との話し合いの実施</p> <p>③元木小放課後子ども教室運営が継続</p> <p>④通学路設定申請等</p> <p>⑤林業体験学習の実施</p> <p>⑥小津バスの元木小敷地内経由運行について協議</p> <p>⑦平成30年度学校関係者評価(保護者)について結果研究</p>	<p>①学校の抱える課題に対する共通理解を深める</p> <p>②恩方東学童保育所の移設について、市役所関係部局との話し合いを行い、駐車スペースの確保および北西角に照明を設置した。平成30年10月1日着工、平成31年1月31日竣工、同2月18日から新学童保育所における活動を開始した。</p> <p>③元木小放課後子ども教室について、平成30年6月1日から開設することができ、順調な運営が継続している。学運協開催時に放課後子ども教室の活動状況を必ず報告している。</p> <p>④元木小西門から茜橋までの道路について、通学路設定申請を高尾警察署に提出したほか、恩方地区町会自治会連合会の働きかけにより、「通学路につき注意」の看板を3箇所設置できた。</p> <p>⑤NPO法人「小津倶楽部」との連携による3年生児童の林業体験学習の準備を行うとともに、平成30年11月に実施した。平成29年度に続き、平成31年度に「元木小オリーブこども植樹」を5月ごろ実施できるように計画している。</p> <p>⑥市の公共交通活性化協議会との連携による小津バスの元木小敷地内経由運行について協議し、承認を得た。</p> <p>⑦平成30年度学校関係者評価(保護者)について結果を協議し、見解をまとめた(元木小だより2月号)。学運協での活動が元木小と地域・保護者との良好な関係を維持・構築するうえで大きな礎になっている。</p>	<p>①恩方東学童保育所の活動が開始されることから、地域住民の安全の確保するとともに円滑な学校運営を行うことのできる環境を整える。</p> <p>②元木小放課後子ども教室と恩方東学童保育所が元木小敷地内において活動を始めることから、両者の良好な関係に基づく児童の安全確保と児童にとって望ましい活動が両立できるように、元木小・元木小学運協・恩方東学童保育所・元木小放課後子ども教室の4者で必要な協議を行う。</p> <p>③小津クラブとの連携を図り、元木小児童が毎年度参加する形の農林業体験学習とオリーブ栽培活動の在り方を模索する。</p> <p>④元木小のいじめ防止及び秩序ある学級・授業づくりを支えることができる活動を模索する。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	榎原小学校	11回	①学校行事の事前の周知や、反省点の協議 ②地域の要望や願いを学校に伝えるとともに、児童の問題や支援体制など課題を共有する機会とした。	①②従来からのPTAや地域による支援活動(学校行事支援や安全見守り、読書活動、体験活動の支援など)に加え、地域運営学校になった平成29年度より、以下の2点に力を入れている。 【花壇「ハピネスガーデン」の整備】:平成29年度の市制100周年「都市緑化フェア」に合わせて、地域・保護者・教職員・児童で花壇整備を開始。放課後の時間に整備を進めている。 【漢字検定の実施】:平成29年度より学運協主催で年に2回実施している。	①②学校コーディネーターを中心に、各種ボランティアを保護者・地域から募り、教育の充実を図っている。教員・保護者以外の多くの大人との交流が、子どもたちに新たな学びや、多様な人と関わる機会をもたらしている。 ・地域と学校のつながりが様々な活動をとおりより強まったと感じる。人と人との親密さが増した。	①地域運営学校としての理念と目的意識を共有するために、平成30年度より、学運協委員と全教職員とで「熟議」を行い、交流を図った。来年度も年間計画の中に「熟議」を盛り込み、教職員との意識の共有化を図りたいと考えている。
	由井第二小学校	7回	①情報交換 ②漢字検定の取り組みについて ③放課後子ども教室の取り組みについて ④近隣公園の遊具について(設置要望) ⑤小中一貫教育である海洋教育の取り組みについて	②漢字検定の運営及び実施 ③放課後子ども教室の運営及び実施 ④海洋教育の対するサポート	②漢字検定を本年度より実施、学運協委員のサポートによる集金、検定の人員確保や当日の準備等もスムーズに行われ、滞りなく検定の実施ができた。漢字検定初年度としては良い成果であった。 ③放課後子ども教室は昨年度に引き続きシルバー人材センターの管理員で実施。4月中旬より申し込みができ、4月中旬から実施できた。怪我についても保健での対応がスムーズにでき良かった。 ④海洋教育については講師の対応等を行うことができた。	②漢字検定については実施方法等定着してきたので、来年度の実施時期を考え実施していく。 ③放課後子ども教室については実施日や雨天時の対応等を検討していく必要がある。 ④海洋教育については、来年度の講師招聘についての予算を計上し、授業や講演を予定している。
	片倉台小学校	8回	①学校・地域・保護者の三者の協働体制の下、地域に開かれた教育課程の編成及び充実した教育活動を行う。 ・学習活動の充実を目指した取り組みを中心に学校・地域・保護者の協働体制の下、教育活動を推進するために必要なこと。 ・防災、防犯教育の充実を目指した取り組みを中心に学校・地域・保護者の協働体制の下、教育活動を推進するために必要なこと。	①学校の特別活動での取り組みである「縦割り班活動」で行っている「花いっぱい栽培活動」に、学運協を中心とした地域ボランティアの支援を得て、活動を行った。 ②学運協予算を有効活用して、算数の習熟度指導の学習ボランティアの導入を決め、学運協の推薦による地域人材の活用を図った。	①地域の自治組織や地域の学習協力者との連携をより確かなものにする事で、教育活動をこれまで以上に円滑に進めることができた。 ②保護者・地域、関係諸機関の協力を得て、教育活動の取組内容を充実させることができた。 ③地域運営学校の周知により地域の目を学校に向けて、ボランティアの人材を発掘し、より活用することができた。 ④教職員の意識改革が図れ、地域と学校の協働体制の強化が図れた。しかし、教員の地域行事への参加が不十分なため声を掛けより地域と一体となって学校運営に努めたい。	①今年度の実績を基に、学校・家庭・地域の連携の在り方をさらに工夫し、強固な協力体制の下、児童の健全育成に資する組織としていく。 ②地域の特性をこれまで以上に明確にし、教育活動の中に生かすことができる資産として位置付け、これまで以上に積極的な活用を図っていくことを目指す。
	由木中央小学校	5回	①学校教育環境整備のため、園芸ボランティアの活動を支援するための具体的な方策等について協議を行った。 ②本校の言語能力向上の一助を担うため、図書ボランティア活動を支援するための具体的な方策等について協議を行った。 ③学校運営の基盤となる内容(教育課程や予算、学校評価など)について協議を行った。	①園芸ボランティア活動支援 ・ガーデニングに詳しい保護者の方の協力を得て、月に1回、花壇の整備を行ってきた。今年度は学運協の予算で購入した大型プランターを設置した。 ②図書ボランティア活動支援 ・詩の暗唱の取組では、児童は一人一冊詩集を購入し、通年で暗唱を実施している。その支援として学運協と図書ボランティア、保護者、地域が連携して児童の暗唱チェックを行ってきた。また、読み聞かせの取組は、毎週水曜日の読書タイムを利用して活動を展開した。	①プランターには秋冬の花や春咲きのチューリップなどを植え込み、登下校する子どもたちだけでなく、由木中央小学校前バス停を利用する地域の方々にも憩いの花壇としても親しまれた。 ②学校教育・家庭教育・社会教育の相互補完により、学校・家庭・地域が一体となって子どもの教育に取り組むことができた。	①学校運営の基盤づくりに向けて、取り組んだ結果、PTAのボランティア活動と連携をしていくことができるような組織作りについて練り上げることができた。これまで行ってきた活動が少しずつ地域に根付き、学運協に対する地域や保護者の理解・協力が得られるようになってきたため、その体制を継続していくための取組を実施していく。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	由木東小学校	8回	<p>①保幼小中連携について ②環境美化・行事について ③その他・情報交換について ④授業参観後の協議会開催について</p>	<p>①地域の幼稚園との交流では、緑が丘幼稚園園児を展覧会に招待し、第5学年児童が作品紹介と校内案内を担当した。第6学年の動物ガイドでは、保護者・地域の方に加え、武蔵野幼稚園園児とその家族を多摩動物公園に招待し、ガイドをした。中学校との交流では、青少対と協力して部活体験を実施した。また卒業生がリトルティーチャーとして夏季休業中の補習教室の手伝いを行った。 ②創立70周年記念事業では、航空写真・記念誌「あおぎり」の制作・記念式典を計画実施した。ピオトープ再開発では、老朽化した木道を撤去した。第4学年児童に「学校に泊まろう」の企画でピオトープをどうしたいかの意見を募った。行事の実施では、新1年生とその保護者を対象に「学校探検」、第4学年を対象に「学校に泊まろう」、全学年対象の「スポーツフェスティバル」「あおぎり祭」を実施した。 ③放課後子ども教室を週2回実施した。毎週金曜日は地域在住の日本棋院の方を招いて囲碁教室を開いている。情報交換では、企業の日線からのライフワークバランスのあり方、いじめ対策の取り組み、学力や家庭での学習習慣等について議論した。 ④学運協委員の方に授業を参観していただき、本校の児童の実態について意見交換を実施した。</p>	<p>①「幼から小へ」「小から中へ」のスムーズな連携を目指すための効果的な取り組みについて議論できた。 ②創立70周年記念式典は、地域の協力もあり、盛大に実施できた。おやじ会の積極的な活動のおかげで、全教室の児童いすにテニスボールを取り付けることができ、いすの音の抑制ができた。さまざまな行事がダイナミックになり、参加者の評判がとても良い。 ③放課後子ども教室のあり方・学童との共存について幅広い議論ができるようになった。教員だけでなく他の職業の方からの貴重な意見を聞くことができ、教育活動の幅が広がっている。 ④本校の児童がノーチャイムでも比較的時間を守って行動できていること、保護者の参観中の私語について共通理解できた。教員は時間をきちんと管理することが大切だと確認した。</p>	<p>①学運協委員のメンバーが、大学教授・中学校長・幼稚園長・地域の町会長・青少対委員長や役員・一般企業の社員等となっているため、異業種の情報交換や学識経験者の意見吸収、連携がしやすい。また、青少対や町会などの地域と連携した行事ができる。学運協の在校生の保護者への知名度を高め、メッセージを伝えていくことが課題である。</p>
	鹿島小学校	6回	<p>①あいさつ運動について ・三校と地域の青少年対策委員会が協働 ・どうやって地域全体に広げていくか。 ②いじめ防止対策について ・研修 ・いじめの未然防止、早期発見、早期解決</p>	<p>①三校合同であいさつ標語を全校から募り、松が谷中・松が谷小・鹿島小の学区内に20枚のプラスチック製の看板を掲示する。 ②三校合同でいじめ防止研修を実施し、三校の教員が研修を受講した。(前年度は地域の方対象の講演会だったため、今回は教員を対象にした。)</p>	<p>①それぞれの学校で作成したあいさつ看板を、各学区内に、学運協委員、青少年対策松が谷地区委員会委員とともに掲示して回った。学校・学校運営協議会・地域が協働する仕組みができてきた。 ②それぞれの学校での事例を、個人情報に十分に留意しながら交換することができ、また、前年度は地域の方を対象に研修会を行ったため、地域の方も交えながらいじめについての理解を深めることができた。</p>	<p>①あいさつ運動を地域に根付かせていくため、特別なことを実施するのではなく、これまでの取り組みを少しずつ発展させながら継続していくことが大切である。また、小中で連携して取り組むことの効果も実感しているので、これも継続していく。 ②いじめの早期発見について、もっと地域の力を組織的に活用することができるのではないか。たとえば今年度、地域の安全見守りボランティアの方から「〇〇さんの様子が気になる」というご意見をいただき、友人関係のトラブルが深刻化することを避けられた。地域と学校が協力しながらのいじめ対策について探っていききたい。</p>
	松が谷小学校	6回	<p>①「あいさつ」が、学校・地域で響くようにできる手立ての検討 ②生き生きと授業に一人一人の児童が取り組むための支援</p>	<p>①全校から「あいさつ標語」を募集し、選定した後、選ばれた標語を使って看板を作成し、地域のいろいろな場所に掲示した。 ②低学年からの英語活動を回数多く実施し、学校全体で英語活動に取り組む体制を整えた。</p>	<p>①学校内だけでなく、地域の方にもあいさつ運動を活発にしていることを示して、あいさつの輪が広がるようになってきた。 ②低学年児童が英語活動を楽しみにするだけでなく、外国にも興味・関心をもつようになった。</p>	<p>①次年度も継続してだけでなく、小中一貫校の学運協とも協力しながら新しい取り組みを始めていきたい。</p>
	上柚木小学校	11回	<p>①上柚木小学校学運協としてのあり方(どんなコミュニティスクールを作れば、学校と家庭・地域が連携した学校づくりが推進できるのか) ②保護者・地域への情報発信について</p>	<p>①かみゆぎ会(PTAの会)や放課後子ども教室と連携・学運協主催の企画・運営の行事を実施(漢検、親子料理教室)</p>	<p>①学運協として行事の企画・運営、他組織との連携をはかることができた。 ・学校からの報告等情報の共有が学運協委員との悩みの共有となり、一緒に学校を作る仲間としての連帯感をもつことができた。</p>	<p>①かみゆぎ会(PTAの会)と放課後子ども教室との一層の連携 ②地域との交流(まずは青少対と) ③行事の企画・運営の充実(漢検、〇〇教室の充実と新規企画の運営⇒文化会館との連携「避難訓練コンサート」「児童の補習学習教室」等)</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	鍵水小学校	6回	①放課後子ども教室および学習支援の充実 ②学校支援基金(ファンド)の設立 ③緑あふれる街づくり ④児童の通学時の安全確保 ⑤地域運営学校としての周知	①放課後子ども教室の充実 ・放課後子ども教室およびスタサポ(放課後補習教室)でのスタッフ募集を行い、学習支援を充実させた。 ②学校支援基金(ファンド)「やりみずっ子基金」の設立 ・学運協の知名度拡大と活動の理解を図るとともに、学校支援活動資金を得るために、運動会で飲み物販売を行った。 ③緑あふれる学校づくり ・やりみず会(PTA)お花係のボランティア募集増員を図り、学校花壇やみどり広場の整備を行った。 ④児童の安全確保のため、通学路の夏草刈り、落ち葉掃き、融雪剤散布等を行った。 ⑤鍵水中学校学運協とともに、広報活動を一本化し、学習支援部や安全環境美化部の具体的活動の様子や成果などを「学校運営協議会通信やりみず」にまとめて発行した。	①運動会での飲み物販売や広報誌「やりみず」を通して学運協に対する認識がより広まった。 ②学習支援部が放課後子供教室での補習教室スタッフを募集増員し、学習支援態勢の強化が図られた。 ③安全環境美化部が季節ごとに夏草刈り、落ち葉清掃、融雪剤散布等の通学路整備を行い、児童の安全確保が図られた。	①新規地域運営学校として発足後2年間、鍵水小学校・鍵水中学校学校運営協議会として合同で多くの活動を進めてきた。メンバーも約半数が小中で重なっていた。平成31年度より第二期に入るに際して、メンバーを増やし学運協の活動をより発展させること、小中それぞれの課題に対応していくことを目標に委員構成を見直した。今後、合同協議会と小中別協議会を効率よく開催しながら、より充実した地域運営学校の活動を推進していきたい。
	第五中学校	10回	①子どもたちをとりまく環境や課題について共通認識を図り、子どもたちのより良い成長を願い、学校・地域・家庭が相互に連携を図り取り組めることについて協議した。 ②学運協が主体的に学校教育活動を把握し学校経営への支援を図れるよう協議した。	①学運協委員と教職員が協議をする場を2回設け、「めざす生徒像」「生徒をとりまく課題」及び、学校評価アンケート結果に基づき意見交換を充実させた。また、年度末には学校の自己評価に対して学校関係者評価を実施した。 ②学運協(地域連携部)と学校が中心となり、地域町会との連携を図り『地域防災訓練』を実施した。学運協委員が地域人材の連絡調整・全体把握を行い、各訓練のコーディネートをした。 ③地域で育つ子どもたちを小・中学校9年間の連続性のある中で育てるという観点から、地域の小学校2校との合同学校運営協議会を実施した。	①学運協委員と教職員との顔の見える関係づくりを進めるとともに、教育活動を客観的に見つめ具体的な改善策を考えることができた。 ②地域防止訓練の実施を通じ、防災拠点となる学校教職員及び生徒の防災意識・共助の精神の高まりとともに、地域町会間の連携を強める一助となった。 ③今後の合同学校運営協議会の在り方について、組織的な運営構造を築くことができた。	①地域小学校の学運協との連携、地域との協働をさらに充実させ、子どもたちの成長のために具体的な活動として定着できるようにすること。 ②学運協の学校支援部(学校コーディネーター)が中心となる組織『五中応援団』の組織的な運営の充実を図れるようにすること。
	第七中学校	5回	①七中応援団の創設に向け、その方策について具体的な協議を行った。 ②本校の教育の充実に向け、様々な角度から意見を出し合った。	①七中応援団の創設に向け、各町会や自治会の理事会に、学運協会長、校長、副校長で出席した。	①七中応援団として4人の人材を確保した。	①七中応援団の創設に向け、人材確保の具体的な方策を描き、実行することが課題である。
	甲ノ原中学校	6回	①「確かな学力の定着と向上」に向けての支援について ②円滑な図書室運営に向けての支援について ③「地域に貢献する甲中生」を育成するための支援について	①学習ボランティアによる学習支援 ・数学の授業を中心に学習ボランティアによる授業内での支援 ・チャレンジタイム(自学自習教室)における学習支援(全校生徒対象の毎週水曜日の放課後と夏休み、3年生対象の土曜日(2学期以降)と冬休み) ②図書ボランティアによる円滑な図書室運営に向けての支援 ・昼休み時間の図書室の開閉館支援と生徒の見守り ・月1回の定例会(図書室内の飾りつけ、図書の廃棄作業等) ③青少対甲ノ原地区委員会活動に積極的に参加(健全育成標語、クリーン大作戦、小さな冬の音楽会)、吹奏楽部とたんぼぼ組(ハンドベルのボランティアグループ)とコラボした福祉施設での演奏活動	①学習ボランティアによる学習支援 ・特に数学において複数の学習ボランティアが1年間通して授業に入ることができた。 ・学校が主催したチャレンジタイム(水曜日:28回、夏休み:8回、冬休み:4回、土曜日(9月-2月):14回)を、教員と意思の疎通を図りながら支援できた。特に3年生が対象で受験に特化した土曜日チャレンジタイムは、生徒の課題を踏まえ個別支援が効果的にできた。 ②図書ボランティアによる円滑な図書室運営に向けての支援 ・副校長、学校司書、司書教諭、図書ボランティアが出席する定例会を月1回のペースで実施できた。その都度、課題を確認し、書籍の廃棄作業、書架整理等の作業が円滑に行えた。図書委員会とのコラボ作業も楽しく円滑に取り組めた。 ・年間を通して、昼休みと夏季休業中(8回)の開閉館の支援と生徒の見守りができた。 ③学校経営計画にある「地域に貢献する甲中生の育成」に貢献することができた。	①「確かな学力の定着と向上」に向けて、さらに継続して支援していく必要がある。そのため学習ボランティアを安定して確保していくことが課題である。 ②図書室の円滑な運営、読書環境の向上等に向けて、引き続き継続して支援していく必要がある。学校司書の出勤日(曜日)に合わせて図書ボランティアの定例会を設定している。学校司書が交代するたびに出勤日(曜日)が変わるため、図書ボランティアが定例会に参加しにくい状況が起き得る。図書ボランティアの安定した人材確保が課題である。 ③甲中美術館に展示する地域作品の情報収集と連絡・調整は進まなかった。
	石川中学校	9回	①学校コーディネーターを中心に、補習授業の質を向上していくための方法と人員確保への発信方法について協議を行った。 ②学運協委員が補習授業の様子を参観した後、教員と共に授業に入っているボランティアを通し、生徒の学習の様子や教授方法の理解をより深めた。学運協では参加生徒へどのように寄り添いながら学習を進めていくことが良いのか話し合った。	①放課後の数学授業に学運協委員も参加し教員と共に教えるとともに、生徒たちと会話をする時間を持つことによって、生徒の状況理解につながる支援をした。 ②道徳の授業等の参観を実施し、学運協委員にも参加してもらい、意見をいただいている。	①学習力向上を通して、支援者を募り、また学運協委員自ら生徒に接することにより、教職員と会話をする機会ができることにより、生徒や効果的な教授方法等、共通理解事項が増えるようになった。 ②学運協委員が授業参観等を行うことで、保護者の立場からや教員への授業展開について意見・感想をいただく場となり、生徒の育成と教職員の指導力向上の一つとなっている。	①今年度は、教職員と委員のつながりが少しずつできてきた。これからも、学習力向上のため、さらに支援者を募り、放課後の補習や授業へ入っていただける人材を確保していく。 今後も、道徳等の授業を参観していただき、より良い学習活動を展開するための実施方法を協議していく。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	長房中学校	8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①放課後学習教室の実施</li> <li>②今年赴任した先生方の地域理解の促進</li> <li>③中間テスト</li> <li>④合唱コンクール</li> <li>⑤不登校生徒の状況</li> <li>⑥生徒の授業評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①放課後学習教室実施計画再確認(30年度募集・まなび要項)。基礎学力及び学力向上の為、放課後学習教室「まなび」を実施して2年目になる。本教室では、一人一人が苦手と感じている問題や教科を中心に自習形式で学習に取り組んでいる。毎回30人～40人の生とが参加している。学習支援ボランティアの方達が、生徒たちの学習を見守りながら、数名の教員も参加して、学力向上を目指して取り組んでいる。</li> <li>②地域巡りの実施について検討</li> <li>③中間テストは1日で5教科を実施するが、力を発揮できるのかテストのあり方について検討</li> <li>④合唱コンクール補助(受付、バス停安全管理等)について検討</li> <li>⑤不登校生徒の状況についての話し合い、意見交換等の実施。</li> <li>⑥生徒の授業評価等について研究</li> <li>⑦放課後学習教室の内容を生徒に聞いても良いのではないかと、また、ボランティアを大学から探してはどうかなどの話し合いを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒たちは、貴重な時間を大切に使い、今までできなかった事ができるようになり、「わかった」「できた」を実感して自信につなげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①今後の展望としては、基礎基本のクラスも設定して、生徒に声かけをして、わからない所を少しずつでもわかるような取り組みを考えている。</li> </ul>
	横川中学校	11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習支援の在り方</li> <li>②地域や保護者の連携の在り方</li> <li>③地域防災体制の組織の在り方</li> <li>④広報活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①PTAと連携した漢字検定、英語検定の実施</li> <li>②PTAと連携した3年生学習教室(夏季及び放課後)の実施</li> <li>③学校支援における地域人材の活用</li> <li>④教員との連絡協議会の実施(1学期)</li> <li>⑤地域運営学校便りの発行(年間8回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①漢字検定(年間3回実施)108名受験、英語検定(年間3回実施)39名受験</li> <li>②夏季学習教室(7日間)国語・数学・英語・理科4教科28コマ開催・10名参加。</li> <li>・放課後学習教室(11月～2月)国語・数学・英語・理科 9名参加</li> <li>③キャリア教育、学習支援における、地域人材の活用、PTAとの連携、協力体制の確立。</li> <li>④教員の学校運営協議会への理解が深まり、新たな学校支援の体制が生まれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①漢字検定、英語検定、3年生学習教室の実施の継続。</li> <li>②進路指導部と連携しながら地域人材の活用も継続。</li> <li>③地域防災の促進が十分ではないので、地域との連携の在り方を考えていく。</li> <li>・少しずつではあるが、教職員の学校運営協議会に対する理解がなされてきており、連携できるようになってきている。今後は地域の諸団体との連携の促進をしていくこと、「持続可能な活動」という視点に立って何を誰とどのように連携していくかが課題である。</li> </ul>
	打越中学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域合同防災訓練について</li> <li>②各種検定について</li> <li>③地域でのボランティア活動の推進</li> <li>④地域運営学校スローガンについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域合同防災訓練「打越中防災フェスタ」の実施</li> <li>②漢検、英検の実施</li> <li>③ボランティアカードの活用による地域ボランティア推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①11町会、消防署、消防団、地元企業、青少対の協力と由井第一小学校の参加により、当初の目的を達成できた。次年度の開催も決まり、町会を含む地域と子連携につなげることができた。</li> <li>②各種検定を学運協がPTAと連携し実施することができた。同時に、小学校との連携実施を行えた。</li> <li>③ボランティア参加生徒が増加し、地域との信頼関係が築けるようになってきた。</li> <li>④地域運営学校スローガン「人に優しく地域と共に打越中学校」看板設置。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校主体の防災訓練から、地域連携、学運協主催の訓練に発展させていく。2020年3月7日実施予定。</li> <li>②漢検、英検に続き数検を実施予定。また、中学校を会場に、級に応じた小学生の漢検を実施。</li> <li>③オリパラ教育推進のボランティアマインドの育成を今後のねらいの一つにしていく。</li> </ul>
	松が谷中学校	6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>①昨年度取組んだ「あいさつ運動」の継続についてと、特に小学生、中学生が地域と関わる具体的な活動について協議を行った。</li> <li>②小中一貫教育の取組と、松が谷地区の特色である、幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校、大学との効果的な連携活動について協議を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小学校、中学校で「あいさつ評語」を募集し、優秀作品を選出した。選出した評語は、地域の青少対に看板として作成してもらい、学校周辺や地域に掲示した。また、11月はあいさつ月間として活動を行った。</li> <li>②校区の小学校とは、小中一貫教育として、部活動見学、体験授業、出前授業等、年間を通して組織的にしている。中学校では、中央大学と連携して、大学の見学や大学で模擬講義を受ける活動を行っている。また近隣の大学には学習ボランティアを依頼している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小学校2校と連携して、「あいさつ評語」の募集を行ったのは、小・中一体となった取組として効果的だった。特に、青少対の協力の下、標語を看板にして掲示したことは、小中学生も地域の一員であるという自覚をもつことができた。</li> <li>②各校の学運協委員の方は、小学校と、中学校の両校に関わっている方もいるので、活動内容や小中連携の状況を理解した上で支援いただいている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「あいさつ」は、中学校としても特色ある活動のひとつなので、今後も継続して取組むとともに、小学校、地域との連携強化を進めていく。</li> <li>②幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校、大学との効果的な連携活動については、様々な可能性が考えられる。今後も、関係者が事前協議を十分に行い進めていくようにする。</li> </ul>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度設置	上柚木中学校	11回	<p>①生徒の学力向上を図るため、学習ボランティアを活用した、夏休み・冬休みの学習教室実施について協議した。</p> <p>②年間2回ずつの漢検・英検を学運協で実施する事で、生徒の学力向上と教員の負担軽減を図り、また、ボランティアによる英検学習教室を実施し、生徒の学習意欲の向上に努めることを協議した。</p> <p>③卒業生保護者に中学校への協力を依頼するため「上中サポーターズクラブ」の充実について協議した。</p> <p>④前年度より続けている防災教育を継続するために講師を招へいすることと、キャリア教育への協力のために講師を招へいすることを協議した。</p>	<p>①夏休み前期と後期に3日ずつ、学校図書館で午前中の学習教室を行った。地域の学習ボランティアや卒業生が先生となって生徒たちが宿題に取り組むことを支援した。</p> <p>②英検・漢検を年間2回ずつ開催し、その際の集金や検定運営、直前の講習会を学運協が実施した。</p> <p>③「上中サポーターズクラブ」への登録数が約10名になった。上記の検定等で運営に協力していただいた。</p> <p>④防災教育には、首都大学東京の市古太郎教授に講師を依頼し、全生徒に対して防災授業を行った。また、キャリア教育として首都大学東京高大連携室長の河西奈保子教授と、キャリア支援課長の川崎健児氏を講師として、「将来を考えた中学卒業後の過ごし方」と題して中学3年生と保護者向けに講演を実施した。</p>	<p>①生徒が長期休業中の宿題に取り組む事で、基礎学力の向上だけでなく、宿題ができていない事による登校しぶりやその後の不登校の予防にもつながっている。</p> <p>②各種検定の案内を全校生徒に配布、保護者にメールで知らせる等の取り組みと、直前の講習会を行ったことで、受験者数も合格者数も増加している。</p> <p>③「上中サポーターズクラブ」の登録者の協力により、上記の検定運営が教員の負担を軽減する事につながっている。</p> <p>④防災教育によって生徒が自分で考え、自助・地域との共助の意識が高まっている。また、キャリア教育講演によって中学卒業後の過ごし方を考える機会を作る一助となっている。</p>	<p>①生徒の基礎学力向上と健全育成に向けての取り組みは少しずつ効果が表れている。今後は小中学運協で連携を取り入れながら、継続していく必要がある。</p> <p>②今年度16名の教員の異動があったが、2学期に行った教員との個人懇談によって、学運協に対する理解も得られた。来年度は1学期のうちに職員会議に参加して活動方針や活動内容の説明をおこなう事で、教員との連携をよりスムーズにしていきたい。</p> <p>③保護者や地域への認知度がまだ低いと、おたより配布などの広報活動や保護者との交流によって認知度を上げる活動を行っていく。</p>
	鐘水中学校	6回	<p>①学校を運営するために必要な財源を確保するための基金(学校支援ファンド)について意見を交わし、やりみずっ子基金を設立した。</p> <p>②生徒アンケートや学力調査の結果をもとに本校の特徴を分析し、本校生徒にとって身に付けるべき具体的な力を明確にし、その実現に向けて学校運営の在り方について協議を行った。保護者による学校評価アンケートの結果をもとに本校の課題を確認し、今後の取組について協議を行った。</p>	<p>①小中合同の学運協を中心に、「学習支援部」、「安全環境美化部」、「広報部」の3つの部からなる組織を構成している。</p> <p>②年に2回学校運営協議会通信「やりみず」を発行し、情報発信を行っている。</p> <p>③「やりみずっ子基金」の活動・アルミ缶回収を実施した。</p> <p>④定期考査一週間前に、放課後及び土曜日補習教室を実施した。</p>	<p>①学校運営協議会企画事業である「花いっぱいプロジェクト」では、安全環境美化部が地域のボランティアと継続的に活動したことによって、うっそうとしていた学校の敷地内を、明るい雰囲気させた。</p> <p>②学習支援部による補習教室では、20名以上の生徒が参加し、10名の学習支援ボランティアの登録があった。</p>	<p>①昨年度は学運協をすべて小中合同で行っていたが、今年は小中別の学運協を行うことで、積極的な活動を行うことができた。平成31年度は平成30年度の計画を更に推進していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援部・・・より多くの生徒が参加できるようにする。学習支援ボランティアをさらに増やし、ボランティアだけで補習教室が行えるようにする。</li> <li>・安全環境美化部・・・多くの児童・生徒が自主的に地域清掃に参加できるようにする。継続して花壇の手入れをしていき、学校全体を明るい雰囲気にしていく。</li> <li>・広報部・・・内容、配付数を検討していき、より魅力的な広報紙を作成する。</li> </ul>
平成30年度設置	第三小学校	8回	<p>①今年度より地域運営学校となったため、学運協の取組みや情報の発信について協議を行った。</p> <p>②SNSの適正な活用について、児童への理解を深めると保護者への啓発の仕方について協議を行った。</p> <p>③児童が、地域と連携して安心して学校生活が送れるように協議を行った。</p>	<p>①今まで実践してきた取り組みを継続していき、学運協便りを発行し、より充実を図っていけるようにした。</p> <p>②SNSの適正な活用については、保護者会で小P連が作成したビデを見せるとともに、保護者会の話題として取り上げた。</p> <p>③「いつでも話せる大人がいる」ということを目的に、毎週木曜日の中休みに学校ボランティアのOGで組織しているCOCCOを活用して、「こっこや」を10月より開催することができた。</p>	<p>①学運協や地域運営学校の1年目として、学運協の取組を周知してきたことで、保護者地域の理解を得ることができた。</p> <p>②学校・家庭・地域が一体となって、SNSの適正な使用に関する子どもの教育に取組むことができた。</p> <p>③回を重ねるごとに、毎週の「こっこや」を楽しみにしている児童が増え、そこでの会話を楽しんでいる姿が見られ、地域とともに、児童を見守っていく組織を構築することができた。</p>	<p>①小中連携を進めていくためには、合同で学運協を開催していくことが有効であるため、今年度は開催に向けての方向性等を検討した。合同学運協の運営方法について、今後検討を重ねていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学運協に対する地域や保護者の理解・協力をより高めていくために、更なる情報発信が必要である。</li> </ul>
	第十小学校	12回	<p>①防災教育及び震災対応について、各町会で行われているが、十小に関わる全ての地域が参加する防災対策(訓練)をしていく必要性について協議した。</p> <p>②学力向上の取組として、「漢字能力検定」「放課後補習教室」について協議を行った。</p>	<p>①今年度は、各町会の防災訓練に参加した。来年度以降十小で合同開催できるか検討していく予定である。</p> <p>②漢字能力検定を10月に、放課後子ども教室を2月、3月に実施した。漢字能力検定の参加者は141名、放課後子ども教室の受講者は23名であった。学運協が積極的に関わられるよう、また、学運協の存在をアピールできるよう、事前アンケートを取ったり、試験官を担ったり、表彰式を行った。</p>	<p>①防災訓練の必要性を改めて感じ、来年度に向けての取組を検討することになった。</p> <p>②児童が目標をもって取り組むことができ、漢字能力検定では合格率88%を達成することができた。</p>	<p>①防災訓練を合同で行うには、細かい調整が必要であり、様々な課題が考えられるが、実現に向けて話し合うことが重要であると考えます。</p> <p>②漢字能力検定は10月ではなく、2月に実施した方が、1年間のまとめとしてとらえやすく、受験希望者も増え、学習への意欲もより高まると思われる。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成30年度設置	松枝小学校	10回	<p>①「安全・安心グループ」による、5町会合同避難所運営訓練の実施について。</p> <p>②「学びグループ」による、放課後子供教室の運営と、夏休み漢字検定について。</p> <p>③「読書グループ」による川口図書館との連携、読み聞かせ活動の充実・継続について。</p> <p>④関係機関・近隣学校との連携について。</p>	<p>①松枝小発の5町会合同の避難所訓練を夏季に実施した。八王子消防署、市防災課とも連携し、避難所マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。各町会の分担、担当についても検討した。</p> <p>②夏休みなど長期休業中にも、雨の日も実施する。漢字検定も運営を学運協主体となって行う。</p> <p>③川口図書館へ全学級が授業として訪問。川口図書館長も、学運協の一員として協力体制をいただいている。読み聞かせグループも、学校とよく連携をとり、朝読書への支援を計画的に実施。</p> <p>④からまつ保育園、川口中学校、さらには八王子北高校との連携。</p>	<p>①教員の15名の参加を含め、約200名の訓練となった。本事業は、東京都とも連携する充実した内容となった。各町会の顔と顔が親しくなり、いざの時の備えやルールづくりをすることで町会の方々の安心の気持ちが大きくなったことは大きな成果である。</p> <p>②学力調査の生活調査からは、放課後遊ぶ割合が全国の7倍となった。このような環境を放課後子供教室が遊びの場を提供している成果と考える。</p> <p>③「読書のまち八王子」の具体的な活動として、図書館交流、読み聞かせ、読書コンクールへの参加と実施することができた。</p> <p>④情報共有、クリスマスコンサートの交流等、学習指導や生活指導の良い効果をもたらしている。</p>	<p>①松枝小学校の各活動グループが相互の協力体制をつくり、教育目標の達成に向けて活動をより活発に行うことができる。</p> <p>・放課後子供教室の漢字検定などを継続して行う体制をつくることにより、学力向上を図る。</p> <p>・次年度も学校と5町会合同の防災訓練を地域運営学校の活動の一環とすることで、保護者・教員の地域の一員としての意識を醸成することができる。</p>
	由井第一小学校	8回	<p>①保護者・地域の教育力を活用し、充実した学校運営の実現を図るため、学校や学運協の取組みの情報発信等について協議を行った。</p> <p>②学校評価や児童アンケートや学力調査の結果をもとに本校の特徴を分析し、本校児童にとって身に付けるべき具体的な力を明確にし、その実現に向けて学校運営の在り方について協議を行った。</p> <p>③地域の防災拠点として、中学校と地域と連携して行う防災訓練の開催について協議を行った。</p>	<p>①学期に1回学校運営協議会通信を発行し、情報発信を行っている。また、学運協主催の取組の紹介コーナーを作り、会議の内容等を掲載し、情報を発信している。</p> <p>②学校・家庭・地域で共通した子ども像をもって子どもの成長を支えるために、学校の教育目標を具現化した提言を作成した。</p> <p>③連携校の打越中学との合同防災訓練を実施した。</p> <p>④日本文化を体験する場として、将棋の会、凧作り凧揚げの会を実施した。</p>	<p>①学運協や地域運営学校としての認識が少しずつ広がり、学校行事等への参加者や行事の運営に協力してくれる方が増加した。</p> <p>②学校教育・家庭教育・社会教育の相互補完により、学校・家庭・地域が一体となって子どもの教育に取り組むことができた。</p> <p>③避難所疑似体験を通じて、避難所の運営方法を考える機会となった。今後、さらに有効な学びの場となるよう改善を図っていく。</p> <p>④地域とのかかわりや学びに向かう力の向上につながった。</p>	<p>①地域と一体となって、地域の子供を育てるという点から、放課後補習教室の実施を検討して、基礎学力の定着を図るとともに、家庭での学習方法を保護者にも周知し、充実を図る。</p> <p>②地域運営学校の周知により地域・保護者の目を学校に向けて、進んで関わろうとするボランティアの人材発掘を図る。</p> <p>③教職員の働き方改革とバランスを取りながら、地域と学校の協働体制の強化につなげる。</p>
	みなみ野小中学校	7回	<p>①学校での教育活動の様子を報告し、学校の様子を知ってもらい、課題が何かを協議した。</p> <p>②学校の教職員と学運協委員が面談をし、学校の課題や学運協として何ができるかなどの要望を直接教職員から聞く懇談の場を設けた。</p> <p>③学運協が、どんなことを実際にできるかを協議し、次年度実施する計画を協議した。</p>	<p>①学期に1回学校運営協議会通信を発行し、学校便りに学校運営協議会のコーナーを設け、会議の内容等を掲載し、情報を発信している。</p> <p>②自然塾の運営者が、委員にいたることから、みなみ野の自然観察(ぼたるを見る会)を実施した。</p>	<p>①今までは単独で行われていた各団体の行事に、保護者の団体や、地域の団体が賛助参加などを行うことで、活性化する可能性があることがわかり、次年度以降への計画に反映することになった。</p> <p>②学運協委員同士の相互理解が深まり、各団体の活動の様子を理解することができた。</p>	<p>①初年度である今年度は、学運協委員が各団体でどのようなことを行っているかの情報交換が中心であり、具体的な活動までは至らなかった。次年度は、今年度話し合ったことをもとに、具体的な活動を展開していく。</p> <p>②学校コーディネーターが、学運協委員でないため、企画を実施するときの人的な募集の時に、参加してもらうよう要請していく。</p>
	みなみ野君田小学校	7回	<p>①サマースクールの運営について</p> <p>②漢字検定の運営について</p>	<p>①指導補助として地域の教育力を積極的に取り入れてサマースクールを実施し、児童の学力向上を図った。</p> <p>②保護者、地域からボランティアとして多くの方に参加していただき、複数の教室を使って漢字検定を実施した。</p>	<p>①多くの指導補助の協力のもとで児童の個別の課題に丁寧に対応することができ、児童の「分かった」という思いを増やすことができた。</p> <p>②多くの運営補助の協力のもとで、200人を超える児童の受験に対応することができた。</p>	<p>①サマースクールは、企画については、学校主導、運営については学運協主導で行うことができるようにする。</p> <p>②漢字検定は、事務手続きから学運協主導で行うことができるようにする。</p>
	秋葉台小学校	8回	<p>①「学校を核にした地域・家庭とともに作るコミュニティづくり」を達成するため、図書ボランティアや花壇ボランティアなどの取組みの充実について、話し合った。</p> <p>②本校の課題である交通安全についての取組みを充実させるため、腕章の配布やベストの配布など、より協力を得やすい状況の確保を行った。</p> <p>③30周年に向けて、どのような取組みをしていくのか、アイデアをもらいながら、学校の取組みへのサポートについて話し合った。</p>	<p>①ボランティアの活動については、学校コーディネーターを軸にしなが、学校では経営支援部を立ち上げ、管理職とともに窓口を一本化し、整理した。</p> <p>②交通安全については、学運協委員の方が地域協力者としてかかわるとともに、学校コーディネーターが腕章やベストを地域協力者に配布、地域とともに見守る体制作りを行った。</p> <p>③学運協委員の方が中心になり、保護者の実行委員の立ち上げを行った。また、地域協力者に30周年に向けて資料の提供依頼や講話依頼を行った。</p>	<p>①ボランティア活動の充実を目途に取り組んだ結果、学年便りや学校便りなど、様々な内容を翻訳し、外国籍の家庭に伝える「外国語ボランティア」の活動が盛り上がった。また、その活動については「タウンニュース」などのメディアにも取り上げられた。</p> <p>②ボランティア活動を行っている方たちの協力も受け、夏に行うサマースクールも例年以上の盛り上がりを見せた。講座数が60近くで、述べ申し込みが2000人におよび、長期休業時における子供たちの居場所づくりに大きく寄与した。</p> <p>③交通安全については、外出時には地域の方も腕章をつけ動いてくださるなど、見守りの輪が広がった。</p>	<p>①30周年に向けては、平成31年度が本番を迎える。地域の協力者を増やすとともに、地域を巻き込んだ取組みの充実を図る。</p> <p>②ボランティア活動については、本校の保護者の組織でもある「秋葉会」との連携も深まりつつある。次年度はさらに密接に協力していく。</p> <p>③交通安全については、本校の喫緊の課題でもあり、普遍的な課題でもある。今後も見守りの輪を広げていく。</p>



	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成30年度設置	別所小学校	6回 ①学校の現状を把握するため、学運協委員と教職員でグループディスカッションを行って、今後の学校の特色ある取組を実践する方向性を確認し合った。 ②保護者、地域とともに学校運営に参画できるような計画を練って、具体的に次年度以降へ実践する方向を探った。 ③学校評価、児童、保護者アンケートの分析から、学校の実態を具体的に協議を重ね、学運協として子どもたちのために何ができるのか協議を行った。	①学運協会長からの提案により、2学期に教員と学運協委員をグループに分け、子どもたちの実態や地域の実態、本校としての具体的な課題について、ディスカッションを行った。 ②学校・家庭・地域で共通した子ども像をもって子どもの成長を支えるために、小中一貫教育も視野に入れ、次年度以降の学運協の在り方を検討した。(次年度から別所中学校が地域運営学校となることの想定)	①地域運営学校1年目として、学運協や地域運営学校としての認識が広がり、学校行事等への参加者や行事の運営に協力してくれる方が増加した。 ②学校・家庭・地域が一体となって子どもの教育に携わることができ、学校教育への参画意識を醸成することができた。 ③本校を会場とした地域防災訓練を開校以来初めて実施することができ、地域の方々に地域の学校としての位置づけを明確にする一助となった。	①次年度、別所中学校が地域運営学校となることから、小中連携を進めていくために、合同で学運協を開催していくことを検討する。3校合同による学運協を各学期1回程度、実施することを協議していく。 ②地域運営学校1年目としての実績については、積み上げることはできなかったが、地盤となる協議を多く重ねることができた。今後、協議したことについて、地域運営学校として具体的な実践に結び付けていく必要がある。
	第二中学校	6回 ①学校が地域防災の拠点になることを意識して、地域と協働して行う防災訓練の開催について協議を行った。 ②生徒が地域の方とのふれあいを通して、地域への感謝の気持ちを持ち、自分の興味関心のあることを伸したり、可能性を広げたりできる活動の開催について協議を行った。	①「地域との防災訓練」を全校で実施した。防災に関する講演会、炊き出し(カレー)を行った。地域からは50名くらいの参加があった。 ②地域人材を活用して「ふれあい講座」を実施。サッカーや将棋など13の講座を開いた。	①防災訓練では、生徒は地域の一員であること意識が高まり、地域において中学生として何ができるかを考えることができた。また、地域の方々に支えられているという意識や地域への感謝の気持ちを持つことができた。 ②ふれあい講座では普通の学校の授業では学ぶことのできないことを地域人材を活用して行うことができた。生徒は参加した講座への興味や関心が高まっている。自分の可能性を広げていきかけになっている。	①防災訓練では、町会との連携をさらに深め、地域からの参加者が増えるようにしていく。地域の方と生徒が町会と一緒に一緒に訓練を行ったり、地域防災に関する討議を行ったりして生徒の地域防災に関する意識を高めていきたい。 ②ふれあい講座は、今年度13講座を開講した。より地域の方とふれあえるように、次年度は年間2回に回数を増やし、新たな講座も開けるようにしていく。講師の確保が難しいが、生徒の興味や関心が広がっているのさらには講座を増やしていく。今年度は「将棋」で報償費を支出してもらった。
	第四中学校	6回 ①小中連携を進めるための学運協のあり方について協議をおこなった。 ②様々なデータに基づき、本校の生徒の強みや課題について明らかにし、強みの伸長や課題の改善に向けた学校運営のあり方について協議をおこなった。	①年2回、小学校と中学校の学運協共催による小中合同学校運営協議会を開催した。 ②ゲストティーチャーを招くことで、強みの伸長や課題の改善に取り組んだ。	①合同の学運協の開催は、小学校と中学校の状況や課題を共通認識するためのよい機会となった。その結果、小学校と中学校の9年間の繋がり的重要性に対する意識を高めることができた。 ②ゲストティーチャーを招くことで、強みの伸長や課題の改善に向けた教育活動を充実させることができた。その結果から、自尊感情測定調査や生徒アンケートについての数値は良好であった。	①小中連携をより充実したものにするためには、小中合同での学運協の開催は効果的であった。今後は、意見交換だけでなく協働関係による取組を実施していきたい。 ②成果を上げながら課題もあった1年間であった。次年度は今年度の経験をもとに、より一層学校・保護者・地域との協働体制づくりの核となれる学運協づくりに取り組んでいく。
	檜原中学校	8回 ①学校における課題 ②地域住民の人材の活用	①各行事や講演会、小中一貫の取組に参加 ・修学旅行業者選定のプレゼンテーションに参加	①中学校での学校行事や授業参観への参加によって徐々に学校や生徒の実態・様子への理解が進み意見交換を重ねるにしたがって共通理解は深められた。 ・小学校との小中一貫への取り組みへも参加し、地域の義務教育への理解も進めることができた。	①学運協主催の特別授業に加え、教職委員の校内研修を実施する。 ②漢字検定について具体的な取組について教職員と連携しつつ、早期の学運協主催の取組に移行する。 ③教職委員との熟議を実施し、相互理解を深める。 ④地域運営学校の理解を深めるためにも先進校視察や東京や八王子市主催の研修会に積極的に参加する。